

2025 年度事業報告

公益社団法人福岡県社会福祉士会
会 長 高田 裕矢

総 括

2025 年度を振り返ると、社会福祉士を取り巻く課題は、単一の制度や分野の中だけでは整理しきれず、複数の生活課題が重なり合う状況が一層明確になった一年であったと言えます。そのような中、本会では、各委員会、事業チーム、ブロック、事務局がそれぞれの役割を担い、社会福祉士の職能団体として、県民の福祉の向上と会員の専門性向上に資する事業を継続してきました。

権利擁護分野では、ばあとなあ福岡を中心に、成年後見人等候補者推薦をはじめとした各種研修や受任者支援に取り組みました。また、公的関与による法人後見モデル事業では、ケース支援会議や専門職アドバイザーの活用を通じて、法人後見のあり方について検討を重ねました。候補者調整の困難さ、不正防止体制の強化、受任者を孤立させない支援、担い手の確保などは、引き続き重要な課題となっています。

また、子ども家庭支援、障がい者支援、生活困窮者支援、医療、司法福祉、災害支援などの各領域においても、研修、相談、派遣、関係機関との連携、普及啓発等が行われました。これらの活動を通じて、本人を中心に据えた支援と、多職種・多機関連携の重要性を改めて確認することができました。

研修・人材育成では、基礎研修、認証研修、スーパービジョン、実習指導者講習会、実践研究、第三者評価に関する取り組みを実施しました。さらに、障がい福祉分野を中心とした各種受託研修を通じて、福岡県内の福祉人材育成にも取り組みました。今後は、研修運営を担う人材の確保、研修内容の質の向上、受講者の実践に結びつく学びの充実が求められます。

活動基盤の面では、会員及び県民に向けた情報発信、会員交流、各ブロックにおける研修会や交流会、ソーシャルワーカーデイに関する取り組み等を実施しました。会員数の増加と事業の多様化が進む中で、会員一人ひとりの声をどのように集約し、会の運営に反映していくかは重要な課題です。そのため、2025 年度は、現行のブロック活動を土台とした支部化と、代議員制度の構築に向けた検討も進めました。

一方で、事業の拡大に伴い、事務局体制の安定化、業務の見える化、財政基盤の確保、規程整備、ガバナンスの強化など、法人運営上の課題も明確になっています。コロナ禍以降、オンライン会議やビジネスチャット、メール等の活用により、会議や情報共有の効率化は進みましたが、その一方で、役員、委員会、事務局、事業に関わる職員間における意思疎通や認識共有のあり方については、改めて見直す必要があります。効率的な情報共有の手段を活用しつつも、必要に応じて直接顔を合わせ、互いの考えや背景を確認できる関係性を再構築していくことも重要です。本会が公益社団法人としての信頼性を維持し、社会福祉士の職能団体として役割を果たし続けるためには、会員活動を支える組織基盤の強化と、丁寧なコミュニケーションに基づく組織運営が不可欠です。最後に、2025 年度の重点施策ごとに事業を総括いたします。

1. ソーシャルワークの推進

社会福祉に関する啓発活動の推進及び社会福祉士の役割に関する啓発を目的として、本人を中心に据えた支援、権利擁護、多職種・多機関連携、地域生活課題への対応に取り組みました。

(1) 権利擁護活動の推進（成年後見、虐待対応、司法福祉他）

成年後見活動では、候補者推薦や受任者支援を継続するとともに、名簿登録者の研鑽機会や地域でのつながりづくりを通じて、後見活動の質の確保に取り組みました。また、法人後見モデル事業では、ケース支援会議や専門職アドバイザーの活用を通じて、公的関与による法人後見のあり方を検討しました。虐待対応、障がい者差別解消、司法福祉の分野においても、専門職派遣、研修、関係機関との連携等を行いました。今後は、候補者調整、担い手の確保、不正防止、困難事案への対応、受任者支援の強化が課題です。

(2) 地域生活課題への対応と分野別支援の推進

子ども家庭支援の分野では、親子交流支援、研修、WEBセミナー、関係機関との連携等に取り組みました。また、生活困窮者支援、介護扶助適正化、医療、地域包括ケア、高齢者支援、独立型社会福祉士支援等の分野においても、それぞれの課題に応じた相談、研修、支援活動を実施しました。今後は、人材確保、支援の継続性、専門性の継承、関係機関との連携強化が求められます。

(3) 災害支援の推進

全国各地で地震や豪雨災害等が相次ぐ中、災害時における福祉的支援の必要性は一層高まっています。

本会では、DWA Tをはじめとする災害福祉支援活動を視野に入れ、認証研修やブロックとの合同研修等を実施し、平時からの備えに取り組みました。今後も、関係機関との連携を図りながら、災害時に社会福祉士が専門性を発揮し、被災者の生活再建を支えることができる体制づくりを進めます。

2. 専門性の向上

生涯研修制度の充実を図る中で、社会福祉士としての価値・倫理、知識、技術、実践力の向上に取り組みました。

(1) 生涯研修・基礎研修・認証研修の実施

生涯研修では、認定社会福祉士制度の普及、認証研修、スーパービジョン体制の確保等に取り組みました。基礎研修では、基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを実施し、社会福祉士としての基盤形成を支援しました。

また、各専門分野においても、実践課題に応じた研修を実施しました。今後は、研修運営を担う人材の確保、受講者への周知、研修内容の質の向上が課題です。

(2) 実践研究、実習指導、第三者評価の推進

実践研究では、実践研究報告誌の発行、論文の書き方研修、ソーシャルワーク実践研究会等を行いました。実習指導では、実習指導者講習会やフォローアップ研修等を実施し、次世代の社会福祉士育成に取り組みました。第三者評価に関する事業では、評価調査や評価調査者の育成を行いました。

今後は、実践を言語化し共有する仕組み、実習指導者の継続的育成、評価事業の安定実施が課題です。

(3) 受託研修等を通じた福祉人材の育成

障がい福祉分野を中心とした各種受託研修を通じて、福祉人材育成に取り組みました。研修運営にあたっては、講師やファシリテーターの確保・育成が重要であることから、誰もが参加の意思を表明できるような公募制を導入し、運営体制の充実を図りました。今後も、研修内容の改善と受講者の理解を深める運営に努め、関係機関と連携しながら、地域の福祉人材全体の資質向上に寄与していきます。

3. 活動基盤の強化

職能団体としての基盤強化と組織体制の強化を進める中で、情報発信、会員交流、地域ごとの活動、組織強化、支部化及び代議員制度の検討に取り組みました。

(1) 広報活動、会員交流、組織強化の推進

ホームページ、会報、SNS等を活用し、会員及び県民に向けた情報発信を行いました。また、会員への情報提供や交流の機会づくり、入会促進キャンペーン等の組織強化にも取り組みました。ソーシャルワーカーデイに関する取り組みでは、関係団体と協働して、ソーシャルワーカーの仕事の内容や魅力を県民に向けて発信する機会を設けました。今後は、新規入会者の確保に加え、退会抑制、会員の活動参加、県民に向けた発信力の強化が課題です。

(2) ブロック活動の促進

各ブロックでは、新人オリエンテーション、研修会、交流会等を実施し、会員が身近な地域でつながり、学び合う機会づくりに取り組みました。参加者の確保、広報方法、会員とのつながりづくり、他団体との連携、活動体制の整備は、今後の課題です。これらのブロック活動は、地域に根ざした会員活動の基盤であり、支部化を進めるうえでの土台となるものです。

(3) 支部化及び代議員制度の構築に向けた検討

会員数の増加に伴い、会員の声をどのように集約し、会の意思決定に反映していくかは重要な組織課題です。2025年度は、現行のブロック活動を発展させる形で支部化を検討するとともに、会員の意見を組織運営につなげる代議員制度の導入に向けて、定款変更や規程整備、会員への説明、意見聴取等に取り組みました。支部化と代議員制度は、地域での活動をより身近なものにし、その地域の声を本会の意思決定へ反映させるための両輪として、一体的に制度設計を進めていく必要があります。

4. その他

会員活動支援の基盤となる事務局体制の強化や、公益法人としてのガバナンスの枠組みの検討を行いました。事業の多様化と受託事業の拡大により、事務局が担う業務は、会員管理、会計、会議運営、広報、研修運営、関係機関との調整、委員会支援等、多岐にわたっています。業務の属人化を防ぎ、安定的に事業を継続できる体制を整えるとともに、役員、委員会、事務局、事業に関わる職員が相互に情報を共有し、認識のずれを早期に確認できる仕組みを整えることが課題です。あわせて、オンライン上のやり取りだけでは補いきれない部分については、顔の見える関係を意識的に再構築し、組織内の信頼関係を高めていく必要があります。

法人運営事業では、定時社員総会、理事会、組織強化、2026年度理事改選に向けた準備、定款変更や規程整備、支部化・代議員制度に関する検討等を行いました。また、日本社会福祉士会支援に関する事業も継続しました。公益社団法人として、財政基盤の安定、情報公開、ガバナンスの強化に引き続き取り組み、持続可能な組織運営を進めていきます。

【参考】

<大分類> 公益社団法人福岡県社会福祉士会の会計区分・事業区分 ※県届出

会計区分	事業区分		
公益目的事業会計	【公益目的事業】	公 1	地域福祉の増進に寄与するための事業
収益事業等会計	【収益事業】	(※本会に収益事業はありません)	
	【その他の事業】 (相互扶助事業)	他 1	ブロック活動等会員活動の支援
法人会計	【法人運営事業】	他 2	日本社会福祉士会への支援・連携

【 公益目的事業 】

1. 地域福祉の増進に寄与するための事業 (公1)

- 中分類 【1】 相談援助事業
 【2】 福祉サービス第三者評価事業
 【3】 社会福祉に関する調査研究・普及啓発事業
 【4】 福祉人材育成事業

【1】 相談援助事業

■ ぱあとなあ福岡委員会

担当理事名：林田久美・日笠山一成

2025年度事業計画	2025年度事業報告
ぱあとなあ福岡活動実績 (後見人等候補者推薦等)	① 名簿登録者数 405名 候補者名簿登録者 372名 ※2025年度名簿登録研修修了者を含む。 ② 成年後見人候補者推薦状況 2025年4月～2026年3月 新規推薦件数 個人 249件 (中核機関への候補者推薦 35件) 候補者なしでの回答件数 24件 ③ 2026年2月活動報告書実績 (2026年1月末) 受任件数 個人 1,758件 法人 57件 未成年 0件
ぱあとなあ運営体制整備	ぱあとなあ運営体制整備 ① ぱあとなあ名簿及び候補者名簿の適正管理 ② 業務監査委員会開催 第1回開催 2025年10月16日(木) 11名 報告事項：2024年度事業報告 2025年度事業計画 協議事項： 再発防止セルフチェックシートについて 2025年度8月活動報告：質問と回答 令和7年度福岡県持続可能な権利擁護支援モデル事業について 規程改正(案)について 無報酬・低額報酬案件に対する対応について 候補者推薦の受任者調整に関する問題 第2回：2026年3月17日(火) 11名 報告事項：2025年度事業報告 2026年度事業計画 協議事項：名簿登録要件の未達者対応について その他 市民後見人養成研修PJT
運営基盤強化	運営基盤強化 ① 会員派遣調整手数料徴収

<p>名簿登録者養成</p>	<p>名簿登録者の養成</p> <p>①成年後見人材育成研修開催（4日間） 日 時：2025年8月～11月 1日目：2025年8月30日 55名 2日目：2025年9月20日 55名 3日目：2025年10月26日 54名 4日目：2025年11月23日 55名 場 所：クローバープラザ</p> <p>②名簿登録者研修開催（1日間） 日 時：2025年12月21日 場 所：クローバープラザ 受講者：54名</p>
<p>名簿登録者支援</p>	<p>名簿登録者支援</p> <p>初任者支援 初回事務報告書事前チェック 15件 （北九州8件、粕屋・宗像1件、福岡北・糸島2件、 福岡南・筑紫2件、筑豊1件、筑後1件） 定期事務報告書事前チェック 4件 （北九州4件）</p> <p>②継続研修開催（4回） 場所：クローバープラザ（2回）・オンライン研修（2回） 第1回：2025年6月22日（日） 場 所：クローバープラザ 受講者：102名 第2回：2025年8月2日（土） 場 所：オンライン開催 受講者 75名（内一般2名） 第3回：2025年10月19日（日） 場 所：クローバープラザ 受講者：69名 第4回：2025年12月6日（土） 場 所：オンライン開催 受講者：86名</p> <p>③更新研修制度運用（受任者・候補者名簿登録者） ④更新研修開催（2回） 第1回：2026年1月31日（土） 場 所：クローバープラザ 受講者：35名 第2回：2026年2月8日（日） 場 所：オンライン 受講者：83名</p>
<p>相談・普及啓発事業</p>	<p>相談・普及啓発活動</p> <p>①ばあとなあ相談窓口（電話相談・来所相談） ②成年後見活用講座開催（2回） 第1回：2025年7月5日（日） 場 所：ウェルとばた 29名 第2回：2026年3月7日（土） 場 所：久留米シティプラザ</p>
<p>地域支援体制</p>	<p>【北九州】 名簿登録者交流会開催 2025年8月24日（日）戸畑生涯学習センター 参加者：23名</p>

	<p>事例検討会・勉強会の開催</p> <p>2025年 6月14日(土) ウェルとばた 22名</p> <p>2025年 10月12日(日) ウェルとばた 18名</p> <p>2025年 11月 9日(日) (オンライン) 63名</p> <p>※北九州・筑後地域合同勉強会</p> <p>2026年 1月24日(土)行橋商工会 34名</p> <p>※リーガルサポート・北九州・筑豊地域合同事例検討会</p> <p>2026年 2月 7日(土)ウェル戸畑 17名</p> <p>部会</p> <p>第1回：2025年 5月25日(日) 10名</p> <p>第2回：2025年 6月14日(土) 8名</p> <p>第3回：2025年 8月24日(日) 7名</p> <p>第4回：2025年 10月12日(日) 6名</p> <p>第5回：2025年 12月 1日(月) 7名</p> <p>第6回：2026年 1月24日(土) 9名</p> <p>第7回：2026年 2月 7日(土) 7名</p> <p>第8回：2026年 2月15日(日) 11名</p>
	<p>【粕屋・宗像】</p> <p>名簿登録者交流会開催</p> <p>2025年 9月 7日(日)</p> <p>古賀市社会福祉センター千鳥苑 受講者：19名</p> <p>事例検討会・勉強会の開催</p> <p>2025年 6月 8日(日)</p> <p>古賀市社会福祉センター千鳥苑 受講者：19名</p> <p>部会</p> <p>2025年 7月26日(土) (オンライン) 受講者：49名</p> <p>※福岡南・筑紫・粕屋・宗像地域合同勉強会</p> <p>第1回：2025年 4月26日(土) 5名</p> <p>第2回：2025年 6月 8日(日) 9名</p> <p>第3回：2025年 9月 7日(土) 6名</p> <p>第4回：2025年 11月 9日(日) 8名</p>
	<p>【福岡北・糸島】</p> <p>名簿登録者交流会開催</p> <p>2025年 9月 6日(土) ふくふくプラザ 25名</p> <p>事例検討会・勉強会の開催</p> <p>2025年 6月29日(日) 南市民センター 22名</p> <p>部会</p> <p>第1回：2025年 5月26日(月) 7名</p> <p>第2回：2025年 9月 6日(土) 7名</p>
	<p>【福岡南・筑紫】</p> <p>名簿登録者交流会開催</p> <p>2025年 8月23日(土) クローバープラザ 22名</p> <p>事例検討会・勉強会の開催</p> <p>2025年 4月19日(土) クローバープラザ 20名</p> <p>2025年 7月26日(土) オンライン 49名</p> <p>※福岡南・筑紫・粕屋・宗像地域合同勉強会</p> <p>部会</p> <p>第1回：2025年 6月 7日(土) 8名</p> <p>第2回：2025年 11月29日(土) 8名</p> <p>第3回：2026年 1月24日(土) 7名</p> <p>第4回：2026年 3月13日(金) 8名</p>

	<p>【筑豊】 名簿登録者交流会開催 2025年9月6日(土) 立岩交流センター 18名 事例検討会・勉強会の開催 2025年10月24日(木) 飯塚市役所 6名 ※飯塚市役所市民相談会 2026年1月24日(土) 行橋商工会 34名 ※リーガルサポート・北九州・筑豊地域合同事例検討会 2026年3月8日(日) オンライン 19名 ※福岡北・糸島・筑豊合同勉強会 部会 第1回：2025年4月23日(水) 4名 第2回：2025年6月25日(水) 5名 第3回：2025年9月06日(土) 5名</p> <p>【筑後】 名簿登録者交流会開催 2025年8月23日(土) 筑後市北部交流センターチクロス 48名 事例検討会・勉強会の開催 2025年11月9日(日) オンライン 63名 ※北九州・筑後地域合同勉強会 2025年11月15日(土) 久留米リサーチパーク 受講者：19名 ※リーガルサポート・筑後合同研修会 部会 第1回：2025年5月7日(水) 6名 第2回：2025年7月10日(木) 6名 第3回：2025年8月23日(土) 6名 第4回：2025年10月29日(水) 4名</p>
メンター制度	メンター配置・活用、相談・面談の実施 6件（全地域含む）
会議開催	① 委員会開催（年6回 偶数月）ハイブリッド会議 第1回：2025年5月28日(水) 16名 第2回：2025年7月29日(火) 16名 第3回：2025年9月22日(月) 17名 第4回：2025年11月27日(木) 17名 第5回：2026年2月5日(木) 17名 第6回：2026年3月27日(金) 19名 ② 運営部会議開催（年6回奇数月）ハイブリッド会議 第1回：2025年5月19日(月) 6名 第2回：2025年7月10日(木) 6名 第3回：2025年8月25日(月) 6名 第4回：2025年10月31日(月) 7名 第5回：2025年12月27日(木) 7名 第6回：2026年2月28日(土) 5名 ③ 部門会議開催 人材育成部会 オンライン会議 第1回：2025年4月24日(木) 6名 第2回：2025年7月31日(木) 6名 第3回：2025年8月30日(土) 5名 第4回：2025年10月6日(木) 6名

	<p>継続研修部会 オンライン会議</p> <p>第1回：2025年 6月30日(月) 5名 第2回：2025年 9月15日(月) 5名 第3回：2025年11月24日(月) 5名 第4回：2026年 1月31日(日) 4名</p>
<p>リスク管理</p>	<p>①定期報告書チェック 2025年 9月28日(日)：1,730件 2026年 3月28日(日)：1,815件</p> <p>②個別ケース会議</p> <p>③苦情対応及び個別面談 2025年 6月19日(木) 面談対象者1名・実施担当者2名 2026年 1月25日(日) 面談対象者1名・実施担当者2名</p> <p>④活動報告書データ管理</p> <p>⑤候補者名簿登録更新要件未達における保留等対策 ・要件未達者課題提出 ・更新要件未達者研修 2025年11月 8日(土) 対象者1名</p>
<p>他機関・他部門との連携</p>	<p>①家裁家事関係機関連絡協議会参加</p> <p>②都道府県ばあとなあ連絡協議会参加 2025年11月23日(日)2名参加</p> <p>③ばあとなあ九州ブロック会議参加 2025年11月30日(日)1名参加</p> <p>④他機関への委員・講師の派遣</p> <p>⑤日本社士会伝達研修への派遣 (意思決定支援、未成年後見人)</p> <p>⑥家裁定例会議参加 2025年 6月18日(水) 2025年 9月10日(水)</p> <p>⑦市民後見人養成研修パッケージの改定 後見窓口一元化要望についての三士会会議 2025年 5月28日(水)</p>
<p>総括 (2026年度に向けた課題等)</p> <p>1. 不正防止体制の具体化と会独自の報酬助成制度創設</p> <p>不正防止対策委員会の意見を踏まえ、不正防止体制の具体化を進めた一年でした。セルフチェックを実施し、後見事務や倫理面のリスクを自ら点検できる仕組みを導入し、その結果を今後の研修や相談体制の検討に活用しました。名簿登録者が孤立せず支援を受けられるよう、メンター制度や相談体制のさらなる強化・充実が課題となっています。</p> <p>また、経済的理由から受任が難しい事案にも対応できるよう、会独自の報酬助成制度の創設に取り組みました。不正の未然防止に加え、後見活動の継続性と公正性を支える仕組みづくりを一步前進させた年度となりました。</p> <p>2. 受任拡大に対応した持続可能な体制整備とDX推進</p> <p>受任件数は増加傾向、家庭裁判所への差し戻しが必要となる未調整案件については、地域支援部による個別打診により件数の減少傾向が見られましたが、委員への負担が依然として課題となっています。60件を超える法人後見受任に対応するため、事務局体制の強化が急務とされ、今後の持続的運営に向けた検討課題として明確化されています。</p> <p>持続可能な体制整備に向けた取り組みとして、受任調整や法人後見部門の管理について、従来は人手に依存していた業務プロセスを見直し、AIを含むシステム導入の検討を進めた一年でした。受任状況や案件情報を効率的に集約・更新できる仕組みを構想し、生産性の向上と担当者の負担軽減を図るとともに、将来的により実効性の高い受任調整・法人後見管理システムの構築につなげていく基盤づくりを進めてまいります。</p>	

3. 法定後見制度見直しを踏まえた実務への対応と体制・人材の継続的強化

法定後見制度見直しの各論点である「必要性を要件とする開始・終了」「成年後見人等の解任・交代」「任意後見人の監督と申立権者の拡大」などの動向を踏まえ、実務への影響を整理しつつ、研修や事例検討、記録や連携体制の見直しに取り組むことが求められます。制度改正の趣旨を踏まえながら、今後も本人の意思と権利を中心に据えた実務を継続できるよう、体制整備と人材育成を一層進めてまいります。

■ぱあとなあ福岡委員会（法人後見事業）

担当理事名：林田久美

2025年度事業計画	2025年度事業報告
(1) ぱあとなあ法人後見運営体制整備	① 業務執行者の確保 ② 法人後見事務局体制の強化 2025年9月16日付、事務局員1名採用
(2) 法人後見受任	① 家裁への法人後見の候補者推薦及び受任 2025年度受任件数(4/1付) 53件 新規受任件数 18件 移行 6件 終了 3件 現在の受任件数 62件 ② 業務執行者の任命(ML及び地域支援部) ③ 業務執行者支援、リスク管理 ・業務報告・リスク管理 ・面談・チェック(就任時・定期報告時、随時) ・ケース会議の開催(随時) ④ 家庭裁判所への定期報告 ⑤ 家庭裁判所との事務連絡 データ管理
(3) 会議開催	部会の開催(年6回 2か月に1回) 第1回 2025年4月10日(木) 第2回 2025年6月12日(木) 第3回 2025年9月6日(土) 第4回 2025年10月23日(木) 第5回 2025年11月14日(金) 第6回 2026年1月23日(金) 第7回 2026年3月12日(木) 業務執行者連絡会(新規) 第1回 2026年2月27日(金)

総括 (2026年度に向けた課題等)

本会法人後見事業では、受任件数が50件を超える状況が継続しており、事業規模の拡大に対応した体制整備が引き続きの課題となっている。事務局体制の強化と業務執行者の確保について検討を継続し、事務局職員が直接業務執行にあたる法人後見のあり方についても検討を進めた。

ぱあとなあ福岡全体の収支状況を踏まえ、困難及び虐待案件の業務執行者報酬を15,000円とする見直しを行った。法人後見の課題が概ね解決された場合には2年を待たずに個人後見へ移行を進める方針とし、成年後見人等の柔軟な交代が図られるよう運用整備を行った。さらに、法人として担うべき対象像を明確にする観点から、法人後見対象者から若年者を除外する方針とし、選任の在り方を整理した。これらの取組により、法人後見事業の継続性を確保しつつ、より適切な受任体制と報酬体系の構築を進めた一年となった。

2026年度に向けた課題としては、これまで人手に依存してきた事務処理について、システム導入等による標準化と効率化を図り、事務ミスの軽減と業務負担の平準化をめざす。

こうした取り組みを通じて、法人後見事業の継続性を確保しつつ、より適切で質の高い後見支援を安定的に提供できる体制の構築に努めていく。

2025年度事業計画	2025年度事業報告
(1) 検討委員会の設置	<p>目的：本事業を実施するため「公的関与による法人後見モデル事業検討委員会」を設置した。</p> <p>委員：委員は本会ぱあとなあ委員会、法人後見部会、業務執行者、虐待対応事業推進チーム、弁護士会、司法書士会等の委員、家庭裁判所、県からのオブザーバー委員で構成した。</p>
(2) 検討会議の開催	<p>検討会議の開催</p> <p>開催日：2か月に1回（2025年7月～2026年3月）</p> <p>場 所：エイムアテイン</p> <p>内 容：受任中のモデル事例を通じて公的関与による法人後見の実施体制を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象案件の選定：虐待等困難案件、不当接触案件等 ・担い手の確保：業務執行者の確保、他士業との複数後見 ・コーディネート体制 ・チーム支援体制とチェックシステム ・情報管理・共有システム ・業務執行者報酬の在り方 ・個人後見等への移行の仕組み <ul style="list-style-type: none"> ・第1回委員会：2025年7月31日（木） 参加者 12名 ・第2回委員会：2025年9月18日（木） 参加者 13名 ・第3回委員会：2025年11月20日（木） 参加者 13名 ・第4回委員会：2026年1月15日（木） 参加者 15名 ・第5回委員会：2026年3月19日（木） 参加者 12名
(3) ケース支援会議の開催	<p>モデルケースの個別支援会議を必要に応じて実施し、支援の諸課題を検討した。</p> <p>日 時：2025年10月21日（火）</p> <p>方 法：事務局・Zoom</p> <p>参加者：11名</p>
(4) 専門職アドバイザーについて	<p>モデル事例に対応するため、専門職相談アドバイザー配置の検討を行った。弁護士・司法書士・社会福祉士のアドバイザーとして登録し、2026年度より開始予定。</p>
(5) 困難案件に関する申立時の上申書について	<p>県が実施した専門職の困難案件に関する対応状況調査において、申立書の内容が実態を全く反映していないなど受任時に必要な情報が不足しているケースが多いと指摘された。</p> <p>これを受けて、検討委員会で虐待困難案件等に関する申立時の情報提供について検討し、独自の「上申書」様式を作成し、県の市町村長申立て研修で広く示すことができた。</p>

<p>(6) 困難案件を受任している法人後見団体の調査について</p>	<p>県内で法人後見を受任している団体を対象に、今後の連携につなげる目的で、困難案件の受任状況、受任体制等に関するアンケート調査を実施。またアンケート調査の内容を深めるために回答のあった団体の中から2団体を対象にヒアリングを実施した。</p> <p>2026年 3月 9日：一般社団法人 2026年 3月 11日：市社会福祉協議会</p>
<p>(7) モデル事業の発信について</p>	<p>虐待等困難案件の後見活動の実態と課題、本モデル事業の意義を関係機関の会議、研修会等で発信を行った。</p> <p>2025年 9月 10日：福岡家庭裁判所と関係機関の連絡会 2026年 1月 8日：成年後見制度における市町村長申立て研修会（県主催） 2026年 2月 13日：モデル事業市町村連絡会</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>本事業は、公的関与のもとで法人後見を実施する際の具体的な体制や役割分担について、実際の受任事例を通じて検証した点に大きな意義があった。虐待や支援困難、不当接触など、対応が難しい事案を対象としたことで、公的関与が必要とされるケースの特徴が明らかとなり、法人後見の果たす役割やその範囲について具体的に見極めることができた。</p> <p>また、ばあとなあ委員会、法人後見部会、業務執行者、弁護士会・司法書士会、家庭裁判所、県など、多様な主体が検討委員会に参画したことにより、各機関の視点を踏まえた実施体制の方向性を共有することができた。</p> <p>その結果、担い手の確保、複数後見のあり方、コーディネート機能、チーム支援、情報管理・共有の枠組みなど、公的関与による法人後見の基礎となる要素の整理が進み、今後の制度設計や実務運用に向けた基盤づくりにつながった。</p> <p>さらに、困難事例への対応力向上に向けて、弁護士・司法書士・社会福祉士による専門職相談アドバイザーの導入準備を進め、2026年度からの運用開始を予定している。</p> <p>加えて、申立時の情報不足という課題に対しては、虐待等の困難案件に関する独自の上申書様式を作成し、市町村長申立て研修を通じて周知を図った。あわせて、県内の法人後見団体を対象としたアンケート調査およびヒアリング調査を実施し、困難案件の受任状況や体制を把握することで、今後の連携と支援の方向性を検討するための基礎となる情報を得ることができた。</p> <p>一方で、業務執行者の安定的な確保と育成、報酬の在り方、公的関与と個人後見等との役割分担、事案に応じた移行の仕組みなど、継続的に検討すべき課題も明らかとなった。</p> <p>今後は、業務執行者の確保と育成に力を入れるとともに、弁護士・司法書士など他士業との複数後見や関係機関との連携体制を一層強化し、支援困難事例にも対応できるチーム支援を定着させていく必要がある。また、本モデル事業で得られた知見をもとに、標準的な運用モデルの明文化や研修・支援体制の充実を図るとともに、実務の検証を重ねながら、公的関与による法人後見の持続可能な運用と質の向上を目指すことが求められる。</p>	

■福岡高齢者・障害者虐待対応チーム

担当理事名：長野圭介

2025 年度事業計画	2025 年度事業報告
(1) 福岡高齢者・障害者虐待対応チーム活動の推進	<p>○チーム登録者（2026年3月末日現在）</p> <p>福岡県弁護士会 58名 福岡県社会福祉士会 40名</p> <p>○2025年度契約市町村等</p> <p>福岡県、広域連合、17市町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケース会議等への派遣 27件 <ul style="list-style-type: none"> 養護者による高齢者虐待 12件 養介護施設従事者等による高齢者虐待 9件 養護者による障害者虐待 4件 福祉施設従事者等による障害者虐待 2件 使用者による障害者虐待 0件 ・研修会等への講師派遣 13件 <ul style="list-style-type: none"> 弁護士単独 3件 社福士単独 7件 弁護士・社福士ペア 3件
(2) 運営管理委員会の開催	<p>運営管理委員会を毎月開催し、派遣報告・報告事例検討、必要な助言のフィードバックを行いチームの質を担保した。</p>
(3) 福岡高齢者・障害者虐待対応チーム登録のための研修会の実施	<p>チーム登録者研修会</p> <p>①日時 2026年3月14日（土）10:00～17:00</p> <p>②場所 弁護士会館</p> <p>③内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡高齢者・障害者虐待対応チームについて（マニュアル、虐待の基礎説明） ・養護者による虐待対応について訴訟の傾向と国マニュアルについて ・事例演習 ・模擬運営管理委員会 <p>④受講者 社会福祉士22名 弁護士6名</p>
(4) 日本社会福祉士会主催委員会及び研修会への参加	<p>2025年度都道府県ばあとなあ連絡協議会</p> <p>①日時 2025年11月23日（日）</p> <p>②場所 ビジョンセンター浜松町</p> <p>③テーマ 民法改正について</p> <p>④参加者 2名（ばあとなあ委員会より参加）</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>①ケース会議派遣依頼は、養介護施設従事者等による高齢者虐待案件の派遣依頼が増加傾向である。その内容が複雑で、助言は高度な内容を求められるものが増えてきている。チーム登録者が適切な助言を行っていくためには、弁護士、社会福祉士ともに、その専門性を高めるとともに後進の育成につとめ、虐待対応の責務を担う市町村・従事者等の支援を図ることで、当事者の権利回復、生活の安定に努めたい。</p> <p>②チーム派遣における人員不足が課題である。特に障害者虐待対応に係る人材が不足しており人材不足解消のための取り組みを検討する必要がある。また、チーム登録者が経験を積むためのオブザーバーとして同行する仕組みの検討も必要である。</p>	

■長期入院被保護者CA事業推進チーム

担当理事名：林田久美 戸丸純一

2025年度事業計画	2025年度事業報告
福岡県長期入院被保護者CA事業の実施	福岡県より受託を受け福岡県域7か所（京築、田川、宗像・遠賀、嘉穂・鞍手、粕屋、北筑後および南筑後）の保健福祉環境事務所にコーディネート・アドバイザー（CA）をのべ8名配置して、当該保護課のケースワーカーと連携のうえで、受け入れ条件が整えば退院可能な患者（被保護者）の退院・社会復帰の支援を行った。
宮若市長期入院被保護者CA事業の実施	宮若市より受託を受け、宮若市役所保護人権課にコーディネート・アドバイザー（CA）を1名配置して、当該保護課のケースワーカーと連携のうえで、受け入れ条件が整えば退院可能な患者（被保護者）の退院・社会復帰の支援を行った。
直方市長期入院被保護者CA事業の実施	直方市より受託を受け、直方市役所保護・援護課にコーディネート・アドバイザー（CA）を1名配置して、当該保護課のケースワーカーと連携のうえで、受け入れ条件が整えば退院可能な患者（被保護者）の退院・社会復帰の支援を行った。
定例CA会議の開催	博多区にある貸会議室（エイムアテイン）にて年間10回のCA会議を実施。広域な社会資源の共有を図り、円滑な業務遂行を目的に開催した。
勤怠管理アプリの導入	県下広域に従事する職員の労務管理の一つとして勤怠管理アプリを導入した。年間に求められる従事日数に対する従事状況や、休暇の取得状況をリアルタイムで把握でき、円滑な管理が行えている。統括（非常勤）の採用により、各事務所への定期的な巡回体制の確立、業務状況の把握、相談できる体制の構築が進みつつある。
研修体系の確立	職員の資質向上を目的に他の委託事業と合同で研修に参加した。 【1回目】 7月18日ビジネスマナー 【2回目】 9月19日仕事に対する基本姿勢日 【3回目】 11月21日健全で働きやすい職場環境 講師：キャリアサポート研究所 西村里恵氏
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>2025年度の退院者数は74名となり、年度当初に設定した目標を上回る達成率105.7%という成果を収めた。本会がこのような長期にわたり事業を受託し、安定した支援体制を継続できているのは、日々各事務所において利用者一人ひとりの状況に応じた支援を行っているCA職員の丁寧な関わりと、医療機関・関係機関・地域資源との連携が着実に図られてきた結果であるといえる。今後も、こうした専門職による実践と多機関連携を基盤として、退院後の生活を支える支援体制の充実と事業の継続的な発展を目指していく。</p> <p>2026年に向けては、本事業の一層の周知と支援体制の強化を通じて、さらなる地域移行を促進していくことが課題である。関係機関等に対しては、本会の支援内容や相談体制を分かりやすく伝える周知ツールを作成し、退院支援の流れや相談窓口、CA職員の役割を簡潔に示すことで、早期からの相談につながる環境づくりを進めていく。</p> <p>また、本事業の取り組みや成果を共有するため、医療機関や関係機関への研修報告の機会を設け事例や実践の報告を通じて相互理解と連携の強化を図る。さらに、委託事業従事者研修への積極的な参加により、他地域の取り組みや先進事例を学び、支援の質の向上と標準化に取り組む。</p> <p>これらの取組を通じて、質の高い支援と多機関連携を一層推進し、退院後も安心して地域で暮らし続けられるよう、さらなる地域移行の実現に努めていきたい。</p>	

■福岡市子どもの健全育成支援事業推進チーム

担当理事名：猿渡真吾

2025年度事業計画	2025年度事業報告
子どもの健全育成支援（相談支援）の実施	市内各区に支援員を配置し、生活保護担当ケースワーカー、生活困窮者相談ライン（生活自立支援センター等）より支援介入の依頼を受け、訪問等により相談支援を実施。今年度より「全件訪問」として取り組んだが、前年度までの流れからの転換、人的課題、区による訪問調整が難航することもあった。
委託元、子どもの健全育成支援（学習支援）との連携協議	相談対応実績をとりまとめ、委託元へ提出。効果測定についてはそれぞれ年に2回支援実績の報告として提出している。学習支援との連携においては委託元の同席を調整しつつ、対応のすり合わせを丁寧に行った。
職員体制の拡充・労務管理・スーパーバイズできる体制	支援拡大の要請を受けて支援員を1.5倍配置に向け職員募集を随時行いつつ、各区への配置計画を随時更新しながら対応した。労務管理については、勤怠管理アプリの運用、週に1回のオンライン朝礼を実施することができている。スーパーバイズとしては、今年度よりSVから主任へ呼称変更、適宜区へ巡回を行い相談・ケースの共有から適切な助言を行った。
定例会・連絡会の開催（毎月）	市内貸会議室（エイムアテイン等）を活用。定例会では委託元である福岡市保護課、子どもの健全育成支援（学習支援）、生活自立支援センターとの定例会議による情報共有を行っている。 連絡会では支援員間の情報共有を中心に支援における課題の共有や事例報告、社会資源の共有を行うほか、奨学金をはじめとする各種支援体制等の共通理解を図った。
運用支援システムの運用	月次報告も対象数が増大し、集計作業の中でミスも散見されたことから、入力・管理状況の可視化と業務効率の飛躍的向上を図るため、運用支援システムの導入に向けたシステム開発会社との準備・PC関連の整備（PC・サーバー入れ替えやセキュリティ対策）を行い、次年度からの正式稼働に備えた。
研修機会の確保	委託事業従事職員合同研修を開催し、平時の業務を振り返る機会をもった。研修受講を広く実現できるための体制を整備した。
保存資料の整理	統括ならびに主任より各区の執務環境を確認し、省スペースの環境下において効率的に業務遂行が行えるよう、環境調整ならに保存資料の整理を行った。
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>支援世帯には複雑な背景や重層的な課題を抱えていることが多く、多職種との連携構築を整備するなど、各支援には時間のみならず精神的な負担感も重なる。支援員との定期的な情報交換を行いながら、支援拡充に際し必要なあらゆる体制構築を図っていく必要がある。</p> <p>両輪として備わる「学習支援」が当事業の大きな“強み”である一方、連携において課題を残している。着実に課題を解決させ「負の連鎖を断ち切る」ために効果的な取り組みを実践する。</p> <p>「(対象世帯の)子どもが意思を表明できる」ようにするため「支援員としてできること」について区を単位としたチームで考えることができるよう、社会福祉士として「支援の質、とりわけアセスメント力の向上」を目指すことを次年度の大きな柱として唯一無二の委託先として成熟させていきたいと考える。</p>	

■ホームレス自立支援事業推進チーム

担当理事名：猿渡真吾

2025年度事業計画	2025年度事業報告
巡回相談・アフター業務の実施	<p>福岡市より委託を受け、ホームレス巡回相談・アフターケア業務を実施した。懸案だった職員の従事時間不足について委託契約条項の見直しと柔軟な職員配置を実現し、不足を生じさせることなく従事することができた。</p> <p>巡回・アフター業務ともに毎月行うべき業務遂行が行え、通報案件や市からの要請に対する対応も行えている。</p>
広報・啓発活動の実施	<p>計画通りの「サロン活動」を実施する中で、今後を見据えた「課題」についても検討がなされ、担当メンバーによる協議も複数回実施した。会員に向け啓発活動への協力依頼等を検討していくこととしている。</p>
関係機関との連携	<p>① 支援調整会議（参集・紙面開催にて毎月開催） 参加団体：福祉センターあおぞら、就労自立支援センター、抱撲館</p> <p>② 福岡市生活困窮者支援体制を構築するためのプラットフォーム協議会・福岡県ホームレス自立支援推進協議会への委員派遣</p> <p>③ 炊き出し会場への訪問、ケース対応等を通して関係機関との連携を重視した対応を継続出来た。</p>
ホームレスの実態に関する全国調査（概数調査）の受託・実施	<p>福岡市より委託を受け、左記の調査を実施（2026年1月）。「都市公園」「河川」「道路」などの区分ごとにそれぞれカウントし報告を行った。前年に引き続き会員へ本事業の取り組みに関わりやすくするため、アルバイト従事者を募集したことで、スムーズに調査実施することができた。</p>
定例会の開催	<p>「活動報告会」として月例の会議を開催。当該事業の進捗状況および現状の課題を協議した。そのほか、福岡市新任保護課職員研修へ新任職員の参加、福岡県生活困窮者自立支援制度人材養成研修への参加したことへの報告、ケース共有を同日に開催することで自立支援に向けた職員の資質向上に資する機会をもった。</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>上記に加えて以下の3点についても重点的に取り組んだ。</p> <p>① 職員人材の確保：委託契約の見直しが実現。パートタイム等、柔軟な働き方を実現できた。</p> <p>② 職員の資質向上：委託事業合同研修を通して自らの振り返りに努める機会を得ることができた。</p> <p>③ 労務管理：職員の労務管理について、天候に左右され体力を消耗する業務もあり、体調管理に留意した。</p> <p>2026年度は「業務内容の見直し」に取り組んでおり、巡回コースの再編から「対象者と会う」ことに重点をおいた日々の活動と、アフターケアを通じた“対象者の社会的自立”を確立できるよう、関係各所との調整や連携の深化を図ると同時に、広報啓発活動の充実を目指す。</p> <p>ホームレス自立支援法の時限が迫る中、次年度以降の体制についても国の動向を注視しつつ、様々な場所において専門職団体として意見発出を行っていくこととしたい。</p>	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>委託事業の実施 生活保護者の介護扶助（介護保険被保険者でないものも含む）にかかる自立支援に資するケアプラン等の点検業務等</p>	<p>直方市より受託を受け、直方市役所保護・援護課に職員を1名配置して、ケースワーカーと連携し今年度は4,663名（前年度：4,719名）のケアプラン等を点検した。 ほかにも介護サービスの利用にかかる指導・援助及び指定介護機関との調整をはじめ、介護扶助適正化にかかる支援及び実績確認業務、自立支援給付該当可能性確認台帳の整備に関する取り組みを行った。 単に区分支給限度額の超過に焦点を当てるだけでなく、超過に至った背景や課題を丁寧に確認し、他方優先の考え方から適切に整理を行った。また事業所訪問に取り組み、現場における考え方をヒアリングしつつ、介護扶助適正化に向けた理解を求めた。</p>
<p>業務管理体制の拡充 執務状況の確認（労務管理）</p>	<p>介護扶助事業にかかる受託は当該市のみとなっており、配置職員も1名となっている。勤怠管理アプリを導入し労務管理体制を拡充させると同時に、担当理事にて事務所訪問を行った。 これに加え統括職（CA 事業との兼務）の採用を行い、執務状況ならい労務管理体制を拡充する対応を行った。</p>
<p>研修体系の確立</p>	<p>委託事業従事職員合同研修を通して日々の業務に役立つ研修を受講することができた。</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等） 本会が長期に事業受託することができているのは、日々の丁寧な業務遂行と、連携が行えている結果であるといえる。一方で専門職の1名配置であることから「孤立」することのないよう、委託事業従事職員合同研修の開催や統括職との連携等により「共有」することができるようになってきている。次年度も事業所訪問をスケジュールに組み込み「介護扶助適正化」について引き続き関係機関の理解を求めていくことが肝要と考える。 上記目標にある介護扶助適正化に資するため、職員にあっては研修受講による自己研鑽に努めることでスキルアップが果たせるよう、本会としても体制整備を引き続き行っていく。</p>	

【2】福祉サービス第三者評価事業

■第三者評価運営委員会

担当理事名：石井宗仁

2025年度事業計画	2025年度事業報告
(1) 福岡県福祉サービス第三者評価機関としての評価調査実施	<p>以下のとおり 24 件の評価を実施した。</p> <p>社会的養護関係施設 計 8 件 児童養護施設：3 件、 母子生活支援施設：2 件 乳児院：1 件、 自立援助ホーム：2 件</p> <p>障がい関係施設 計 13 件 児童発達支援事業所：10 件 障がい者・児施設：1 件 就労継続支援事業所：2 件</p> <p>保育所 計 3 件</p>
(2) 評価調査機関としての基盤強化	<p>評価調査者の人材育成及び増員 県社協の養成研修への受講者派遣 7 名</p> <p>内部継続研修会の開催</p> <p>(1). 第三者評価調査者フォローアップ研修【第1回】 日時 令和7年6月15日(日) 10:00～12:00 場所 Zoomによるオンライン 受講者 16名 テーマ ①自閉スペクトラム症 (ASD) について ②児童発達支援のガイドラインについて ③評価基準 (障がい者・児版) における視点 ④評価機関としての評価とコメントの書き方</p> <p>(2). 第三者評価調査者フォローアップ研修【第2回】 日時 令和7年9月27日(土) 14:00～16:30 場所 エイムアテイン博多駅前会議室 受講者 18名 テーマ ①福祉サービスにおける苦情・苦情解決の考え方 ②評価とコメントの標準化に向けて</p> <p>(3). 第三者評価調査者フォローアップ研修【第3回】 日時 令和7年12月14日(日) 10:00～11:30 場所 Zoomによるオンライン 受講者 14名 テーマ ①就労継続支援A型サービスと第三者評価</p> <p>(4). 第三者評価調査者フォローアップ研修【第4回】 日時 令和8年3月22日(日) 14:00～16:30 場所 エイムアテイン博多駅前会議室 受講者 14名 テーマ ①自立援助ホームにおける第三者評価 ②評価とコメントの標準化に向けて</p>

	<p>受審体制の基盤整備 マニュアルの見直しについては、十分な進捗を得るには至らなかった。</p> <p>県内児童相談所との連絡会の実施 福岡市児相「えがお館」との連絡会を開催 11月21日（金） 参加者5名（委員）</p> <p>県社協苦情解決従事者研修の受講 6名（2月、オンライン研修）</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>評価調査については、年間を通して安定的に実施できており、人材育成においても研修参加や内部研修の開催により一定の成果が認められる。特に、就労継続支援や児童発達支援の申込件数の増加に対応するための研修を実施し、自立援助ホームに関する評価にも対応するなど、対象分野の拡大にも対応することができた。また、当初の予定を大きく上回る申込件数に対しても、調整を図りながら概ね対応することができた。一方で、受審体制の基盤整備においては、マニュアルの見直しが計画どおり進まず、評価の標準化や業務効率の面で課題が残った。さらに、申込件数の増加に伴い、今後は調査者の不足が懸念される状況にある。</p> <p>今後は、評価手順や記録様式の整理・統一を進めるとともに、マニュアルの改訂を計画的に実施し、評価の質の均一化を図る必要がある。また、調査者の確保および育成を強化し、研修については次年度以降も年4回の実施を継続することで、組織全体の評価力向上と安定的な受審体制の構築につなげていく。</p>	

【3】社会福祉に関する調査研究・普及啓発事業

■実習指導者養成研究委員会

担当理事名：白石浩一

2025年度事業計画	2025年度事業報告
実習指導に関する研修会開催	以下の通り研修会を当初の計画通り開催した。 (1) 実習指導者アップデート研修会 日 時：2025年 5月 23日(金) 場 所：クローバープラザ 受講者：22名(会員16名、非会員6名) (2) 社会福祉士実習指導者講習会 日 時：2025年 12月 2日(火)～3日(水) 場 所：クローバープラザ 受講者：85名 修了者：85名(会員42名、非会員43名) (3) 実習指導者フォローアップ研修会 日 時：2025年 11月 5日(水) 場 所：クローバープラザ 受講者：9名(会員4名、非会員5名)
実習指導に関する調査、研究	社会福祉士実習指導者講習会及びフォローアップ研修会、実習指導者説明会後にアンケートを実施した。
実習指導に関する団体との協力・連携	フォローアップ研修会を通じて、養成校教員への参加を呼びかけた。
総括 (2026年度に向けた課題等) 2025年度の特記事項としては、2024年度の実習指導者講習会で、2日目朝の大雨により一部公共交通機関が運休・遅延し会場に辿り着けず修了できなかった2名を救済措置として、2025年度の実習指導者講習会では2日目を無料で受講してもらった。同様のケースとして講師が会場に辿り着けない事もあり得るため、リスク管理の一つとして予め代理講師候補者を準備しておく必要がある。	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
福岡県社会福祉士研究誌（第13号）の発行	<p>2025年度は投稿論文が2本であったため、当初は研究誌の発行を見送る予定であった。しかし、今回発行を見送ると3年連続での見送りになる点などを鑑み、理事会での協議を踏まえて、投稿締め切りの期日を延長する措置を取った。結果、投稿論文は3本になった。</p> <p>3本の投稿論文の査読などを経て、最終的には2本の掲載が決定した。研究誌は通信5月号とともに会員に郵送予定である。</p>
論文の書き方に関する研修会の開催	<p>論文の書き方に関する研修会 概要</p> <p>日 時：2026年3月28日（土）13:00～17:00</p> <p>場 所：筑紫女学園大学</p> <p>内 容：研究初学者を対象にした論文の書き方の講義、実践研究の基礎などに関する講義 フリートーク</p> <p>講 師：大西 良 氏（筑紫女学園大学） 伊東 良輔 氏（一般社団法人ぱるむ）</p> <p>受講者：10名</p>
ソーシャルワーク実践研究会の開催	<p>2025年度は年に4回を目処に開催し、研究会のメンバーによる共同研究の実施を検討することを当初の目的としていた。</p> <p>2025年10月に2回、研究会を開催し、メンバーによる共同研究を行う方針である程度一致した。しかし、研究テーマや研究方法などについて、引き続き協議が必要である。</p>
会員の調査研究活動の促進について	<p>2025年度も会員の調査研究活動の支援および促進のため、どのような方策が求められているか検討を行った。</p> <p>結果、上記の仕組みの創設も必要ではあるが、それ以上に、そもそも調査研究に関する基礎的知識などの広報および啓発が必要であることが明らかになった。</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>(1). 2025年度はソーシャルワーク実践研究会の体制整備を行ったうえで、予定していた回数より少ない結果になったが、研究会を開催できている。また、論文の書き方に関する研修会の内容について一定の刷新を行った。</p> <p>(2). 研究誌の投稿については、今年度も低調な結果が続いた。この結果は本会の研究誌に限ったことではないが、やはり調査研究に関する基礎的知識などの広報・啓発を継続的に実施していく必要があると考える。</p> <p>(3). 2026年度はソーシャルワーク実践研究会による共同研究の実施を一つの目標としたい。また、論文の書き方に関する研修会の内容についても更なる見直しを行い、会員のニーズにこれまで以上に応じられる研修を提供できるように整備していきたい。</p>	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
(1) 認証研修の開催	(1) 認証研修 地域共生社会推進研修の開催 日 時：2025年 6月 8日(日) 2025年 6月 15日(日) 2025年 6月 29日(日) 講 師：片岡 靖子 氏 (内部講師) 久留米大学文学部 教授 場 所：リファレンス 受講者：13名
(2) 独自研修の実施	独自研修① 死後事務、意思決定支援、 日 時：2025年 9月 27日(土) 講 師：講師：吉武 ゆかり 氏 一般財団法人ウェルネスサポート Lab 場 所：エイムアテイン 受講者：28名 独自研修② ためこみ症をともに学び、考える 日 時：2026年 1月 25日 (日) 講 師：講師：中尾 智博 氏 九州大学病院 精神科神経科教授 場 所：エイムアテイン 受講者：28名
<p>総括 (2026年度に向けた課題等)</p> <p>認証研修においては、メゾ・マクロの視点になると難しく苦手と感じる受講生が多く、明日からの実践において新たな考え方を得ることができたと有意義を感じる受講生が多かった。</p> <p>2つの独自研修の企画を実施したが、ともに締切前に定員を満たすなど受講生の関心の高さを得られるような企画を立てられたことは委員会にとっても自信に繋がった。</p> <p>同じ企画の第2弾を求める声もあるため、アンケートの内容を踏まえてより満足度の高い企画ができるよう行っていく。</p>	

■広報委員会

担当理事名：月川はる奈

2025年度事業計画	2025年度事業報告
福岡県社会福祉士会の広報・啓発活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・通信の安定的な発行を継続し、年10回発行した。 ・通信内容の充実として、新コーナーや連載を開始。 <p>県民向け福祉セミナーの開催 日 時：2025年12月13日（土）13：30～15：00 場 所：オンライン ZOOM 内 容：心のバリアフリーをめざして 受講者：44名</p>
会員への情報発信と、会員間のネットワーク構築をサポートする	<ul style="list-style-type: none"> ・公式 Instagram を開始。 フォロワー420人（2025.4.11現在） ・通信10月号にて「通信に関するアンケート」実施。 ・新コーナーとして「私の仕事紹介」「委員さんに聞いてみた」「お悩み相談室」を開始。
関連団体と協働し、ソーシャルワークの認知向上を図る	<p>ソーシャルワーカーデイイベント 日 時：2025年11月8日（土） 場 所：リファレンス 内 容：シンポジウム 三団体のブースイベント 関連団体の出店（コーヒー、焼き菓子等） 参加者：60名</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>引き続き通信の安定的な発行の継続、内容の充実を図っていく。また会員や関連団体とのネットワーク構築に向けた取り組みを行っていく。</p> <p>2026年度は支部化や会の体制が変わる可能性もあり、会員に向けた分かりやすい情報の発信が必要と思われる。ホームページの活用についても検討していきたい。</p> <p>新規入会者の獲得への取り組みは今後も必要であるが、退会抑制のためにも会の活動の魅力を発信するとともに、活動への参加意欲をかき立てるイベント等の検討も行っていきたい。</p>	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>入会啓発活動</p>	<p>(1) 入会啓発活動 国家試験実施日に受験者に応援メッセージと品物等を配布する。 日 時 2026年 2月 1日 (国家試験当日) 場 所 次の2試験会場 九州大学 西日本総合展示場</p> <p>(2) 学生向け出前講座の開催 ①筑紫女学園大学 日 時 2025年 7月 2日(水) 講 師 淵上直矢氏、山本奈瑠美氏、橋山和美氏 ②筑紫女学園大学 日 時 2025年 7月 12日(土) 講 師 淵上直矢氏、山本奈瑠美氏、谷本和駿氏 ③西南学院大学 日 時 2025年 11月 10日(月) 講 師 砂田優子氏、亀井琴絵氏、久藤健司氏 ④福岡県立大学 日 時 2026年 1月 29日(木) 講 師 淵上直矢氏、中村忠義氏、亀井琴絵氏</p>
<p>会員活動促進</p>	<p>交流会の開催 委員会活動等参加に向けてのオリエンテーション 日 時 2026年 11月 29日 (土) 場 所 エイムアテイン 受講者 12名</p>
<p>総括 (2026年度に向けた課題等) 入会促進については当初予定通り開催することができた。学生向けの講座にアンケートの結果をもとに次回以降改善を行うとともに2026年は回数を増やして5回の実施を予定している。 委員会活動等参加に向けてのオリエンテーションについては、半数以上の会員が委員会の委員に応募されたため、一定の成果を出すことができた。 2026年については、定員を満たしていない委員会もあることから、会員活動の促進に向けての交流会を開催し、多くの会員が会の活動に参加できるよう取り組んでいく。</p>	

【4】福祉人材育成事業

■生涯研修センター協議会

担当理事名：長野圭介

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>○認定社会福祉士制度研修認証申請を行い、会員の認定社会福祉士認証研修受講の機会を確保する。</p> <p>○共通専門・分野専門・SV事業の進捗管理及び達成状況の把握と評価を適切に実施する</p>	<p>【2025年度実施認証研修】</p> <p>1. 地域共生社会推進研修 2025年 6月 8日（日） 2025年 6月 15日（日） 2025年 6月 29日（日） 3日間</p> <p>2. リーガル・ソーシャルワーク研修 2025年 8月 30日（土） 2025年 8月 31日（日） 2日間</p> <p>3. こども虐待防止のソーシャルワーク 2025年 10月 4日（土） 2025年 10月 5日（日） 2025年 11月 1日（土） 2025年 11月 2日（日） 4日間</p> <p>4. 家族ソーシャルワーク研修 2025年 11月 1日（土） 2025年 11月 2日（日） 2日間</p> <p>5. 発達障がいへの理解と発達障がい者に対する支援の実際 2026年 1月 10日（土） 2026年 1月 11日（日） 2日間</p> <p>6. 災害支援活動者養成研修 2026年 1月 24日（土） 2026年 1月 25日（日） 2日間</p> <p>7. 自殺予防ソーシャルワーク研修 2026年 2月 14日（土） 2026年 2月 15日（日） 2日間</p> <p>8. 更生支援コーディネーター養成研修 2026年 2月 21日（土） 2026年 2月 22日（日） 2日間</p>
<p>○認証申請（4/1～4/14）</p> <p>1. 高齢者委員会 2. 障がい者支援委員会 3. 医療委員会</p>	<p>【新規認証申請】</p> <p>1. 生物心理社会モデルを用いたアセスメントとアプローチ 2025. 10. 1～2031/9/30 有効</p> <p>2. 在宅障がい者ソーシャルワーク論（身体・知的・精神・医療的ケア編） 2026. 11. 1～2029. 10. 31 有効</p> <p>3. HIV陽性者支援ソーシャルワーク 2026. 4. 1～2029. 3. 31 有効</p>

○各種センター協議会など	<p>1. 福岡県社会福祉士会生涯研修センター協議会 ※ 開催なし</p> <p>2. 九州沖縄ブロック生涯研修センター協議会 日 時：2025年11月30日（日）12：00～15：30 場 所：沖縄県総合福祉センター（沖縄県） 出席者：福岡県より1名</p> <p>3. 全国生涯研修委員会議 <第1回> 日 時：2025年 5月11日（日）13：00～16：20 場 所：WEB開催 出席者：福岡県より1名参加</p> <p><第2回> 日 時：2025年 9月27日（土）12：00～16：30 場 所：全理連ビル（東京都） 出席者：福岡県より1名参加</p>
生涯研修制度と認定社会福祉士制度広報啓発	実施無し。
SV事業（通年）	<p>【スーパービジョン研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーバイザー24名 ・スーパーバイジー16名受講
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>（1）認証研修に関しては各委員会の事業計画通りに実施できた。Zoomを利用する委員会もあり、広報の為に日本社会福祉士会のホームページに案内を掲載するなど集客に注力した。</p> <p>（2）スーパービジョン研修については、予定どおり受講希望者に案内し実施した。</p> <p>（3）「認定社会福祉士オリエンテーション」の実施は無し。現在ユース委員会や各ブロックにて新人オリエンテーションを実施しており、それらの場で認定社会福祉士等についての説明を実施している為、生涯研修センター協議会にて実施する必要性を検討する。</p> <p>（4）研修を企画運営する、高齢者、障害者、医療、児童家庭、地域社会・多文化、ばあとなあ各委員会とも情報交換、共有を行い適切な運営を継続的に行っていく。</p> <p>（5）認証機構において、2026年度から認定福祉士取得にむけての新ルートができた。本会における周知・活用などについて今後検討する。</p>	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>基礎研修Ⅰの開催</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職が職能団体を持つ意義を知る ・日本社会福祉士会・都道府県社会福祉士会の組織と役割を知る ・生涯研修制度を知る ・社会福祉士共通基盤を知る ・実践現場における社会福祉士の専門性を踏まえた役割を知る ・実践を踏まえて社会福祉士が倫理綱領や行動規範を持つ意味を知る 	<p>【第1回集合研修】</p> <p>日時：2025年11月23日（日） 9：30～16：00 ※同一内容を2クラスに分けて開催 第1クラス 9：30～12：00 第2クラス 13：30～16：00</p> <p>場所：クローバープラザ 科目：独自研修 「社会福祉士の組織と役割を知る」 ソーシャルワーク理論系科目Ⅰ 「社会福祉士としての専門性について考える」</p> <p>受講者：90名</p> <p>【中間課題研修】</p> <p>「社会福祉士に共通する専門性の理解」 ※eラーニングにて実施</p> <p>【第2回集合研修】</p> <p>日時：2026年1月24日（土） 9：30～16：00 ※同一内容を2クラスに分けて開催 第1クラス 9：30～12：00 第2クラス 13：30～16：00</p> <p>場所：クローバープラザ 科目：権利擁護・法学系科目Ⅰ 「社会福祉士の倫理綱領の実践適用」</p> <p>受講者：92名</p> <p>【基礎研修Ⅰ 修了者 90名】</p>
<p>基礎研修Ⅱの開催</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の倫理綱領や行動規範を踏まえた実践の理解ができる ・社会福祉士共通基盤について理解を深め、実践との関係を知る ・社会福祉援助の展開過程を知り、それを踏まえた実践ができる ・実践力を高めるための基礎的な援助技術を身につける ・スーパービジョンについて学ぶ 	<p>【第1回集合研修】</p> <p>日時：2025年4月27日（日） 9：30～17：00 場所：クローバープラザ 科目：ソーシャルワーク理論系科目 「相談援助サービスの視座と社会福祉援助の展開過程」「実践のためのアプローチ」「自立生活支援とコミュニティソーシャルワーク」</p> <p>受講者：78名</p> <p>【第2回集合研修】</p> <p>日時：2025年5月25日（日） 9：30～17：00 場所：クローバープラザ 科目：ソーシャルワーク理論系科目Ⅰ 「実践事例演習Ⅰ」</p> <p>受講者：75名</p> <p>【第3回集合研修】</p> <p>日時：2025年6月21日（土） 9：30～17：00 場所：クローバープラザ 科目Ⅰ：地域開発・政策系科目Ⅰ 「社会資源の理解と社会資源開発」「連携システムの在り方とネットワークの構築」</p>

	<p>科目 2 : 人材育成系科目 「スーパービジョンとは」「スーパービジョンのモデルセッションを見る」「スーパーバイザー体験」 受講者 : 79 名</p> <p>【第 4 回集合研修】 日 時 : 2025 年 7 月 27 日 (日) 9 : 30~14 : 00 場 所 : クローバープラザ 科 目 : 地域開発・政策系科目 I 「地域における福祉政策と福祉計画」「社会福祉調査の方法と実際」 受講者 : 78 名</p> <p>【第 5 回集合研修】 日 時 : 2025 年 9 月 21 日 (日) 9 : 30~17 : 00 場 所 : クローバープラザ 科 目 : 権利擁護・法学系科目 I 「社会福祉における法 I」「ソーシャルワークと権利擁護の視点 I」「社会福祉における法 II」「ソーシャルワークと権利擁護の視点 II」 受講者 : 77 名</p> <p>【第 6 回集合研修】 日 時 : 2025 年 10 月 26 日 (日) 9 : 30~17 : 00 場 所 : クローバープラザ 科 目 : 実践評価・実践研究系科目 I 「実践研究の意義と方法」「実践研究のための記録」「実践評価の方法」 受講者 : 78 名</p> <p>【第 7 回集合研修】 日 時 : 2025 年 11 月 30 日 (日) 9 : 30~12 : 30 場 所 : クローバープラザ 科 目 : 実践評価・実践研究系科目 「実践研究発表の方法」 受講者 : 78 名</p> <p>【基礎研修 II 修了者 80 名】</p>
<p>基礎研修Ⅲの開催 【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士としての権利擁護実践の基礎を理解する ・ ソーシャルワークの理論をふまえた援助システムを理解する ・ 地域福祉システムと実践の関係を理解する ・ 事例研究の基礎を理解する ・ スーパービジョンを体験する 	<p>【第 1 回集合研修】 日 時 : 2025 年 5 月 10 日 (土) 9 : 30~17 : 00 場 所 : クローバープラザ 科目 1 : 実践評価・実践研究系科目 I 「対人援助と事例研究」 「事例研究の基本的枠組み」 「事例研究の方法としてのケースカンファレンス」 受講者 : 62 名</p> <p>科目 2 : ソーシャルワーク理論系科目 I 「実践事例演習 II」 受講者 : 61 名</p>

【第2回集合研修】

日時：2025年6月7日（土） 9：30～15：30

場所：クローバープラザ

科目：実践評価・実践研究系科目Ⅰ

「模擬事例検討会」

受講者：62名

【第3回集合研修】

日時：2025年7月5日（土） 9：30～15：30

場所：クローバープラザ

科目：権利擁護・法学系科目Ⅰ

「意思決定の支援」

受講者：62名

【第4回集合研修】

日時：2025年8月9日（土） 9：30～15：30

場所：クローバープラザ

科目：地域開発・政策系科目Ⅰ

「地域における福祉活動」

受講者：63名

【第5回集合研修】

日時：2025年9月13日（土） 9：30～15：30

場所：クローバープラザ

科目：サービス管理・経営系科目Ⅰ

「社会福祉の組織と組織マネジメントの意義、会議運営」「福祉サービスにおける質の評価サービスマネジメント」「リスクマネジメントと苦情解決システム」

受講者：63名

【第6回集合研修】

日時：2025年10月13日（月・祝） 9：30～15：30

場所：クローバープラザ

科目：サービス管理・経営系科目Ⅰ

「事例研究」（苦情、リスク、サービス評価）

受講者：61名

【第7回集合研修】

日時：2025年11月8日（土） 9：30～17：00

場所：クローバープラザ

科目：地域開発・政策系科目Ⅰ

「地域の課題解決に向けた具体策について」

受講者：63名

【第8回集合研修】

日時：2025年12月13日（土） 9：30～17：00

場所：クローバープラザ

科目1：人材育成系科目Ⅰ

「スーパービジョンのモデルセッション」

科目2：人材育成系科目

「新人教育プログラム」

受講者：62名

【基礎研修Ⅲ 修了者 66名】

<p>諸会議</p>	<p>【幹部会】 <第1回幹部会> 日 時：2025年10月8日（水）19：30～21：00 場 所：WEB開催 出席者：4名</p> <p><第2回幹部会> 日 時：2026年1月14日（水）19：30～21：00 場 所：WEB開催 出席者：4名</p> <p>【委員会】 <第1回委員会> 日 時：2025年10月29日（水）19：30～21：00 場 所：WEB開催 出席者：17名</p> <p><第2回委員会> 日 時：2026年3月11日（水）19：30～21：00 場 所：WEB開催 出席者：17名</p>
<p>基礎研修講師養成等</p>	<p>【基礎研修講師養成研修参加者推薦】 <2025年度基礎研修講師養成研修> 主 催：日本社会福祉士会 日 時：2026年1月31日（土）～2月1日（日） ※担当科目別に時間を区切って開催 場 所：WEB開催 推薦者：3名 ・実践評価・実践研究系科目 1名 ・地域開発・政策系科目 1名 ・ソーシャルワーク理論系科目 1名</p> <p>【講師情報交換会】 日 時：2026年2月18日（水）19：30～21：00 場 所：WEB開催 出席者：11名</p>
<p>総括 （2026年度に向けた課題等）</p> <p>（1）2025年度の基礎研修運営では、ある程度の人員体制が整う中で、円滑な研修運営を行うことができたが、十分な人員体制といえる状況ではなかった。2026年度は、組織体制を整える中、研修内容を含めた基礎研修運営にも目を向けた対応ができるようにしたい。</p> <p>（2）委員会の人員体制は、次の世代の人員確保も視野に入れた対応を行っていききたい。</p> <p>（3）基礎研修では、事前課題・修了課題といった提出物が多くあるが、日本社会福祉士会においてもAIを活用した課題提出の考え方について議論となっており、本会においてもその考え方について整理できるよう努めていきたい。</p>	

■こども家庭委員会

担当理事名：日笠山一成

2025年度事業計画	2025年度事業報告
認定社会福祉士認証研修の開催	認定社会福祉士認証研修（集合研修） 日 時：2025年10月4日(土)・5日(日) 2025年11月1日(土)・5日(日) 場 所：クローバープラザ テーマ：「子ども虐待防止のソーシャルワーク」 参加者：11名
「つながろう！チャイルド・サポート・ネットワーク(C.S.N)」	「第2回こどもミライ Café」 日 時：2025年9月6日(土)10:30～13:50 場 所：クローバープラザ 参加者：11名 「第3回こどもミライ Café」 日 時：2026年3月7日(土)13:45～16:00 場 所：クローバープラザ 参加者：6名
福岡市子ども虐待防止活動推進委員会 (1) 市民フォーラム参加 (2) ワーキンググループ参加 (3) 推進委員会参加 (4) 児童虐待対応研修	(1). ワーキンググループ参加…年2回開催出席 ①日 時：2025年5月12日(月) 場 所：福岡市 ②日 時：2025年12月15日(月) 場 所：福岡市 (2). 福岡市子ども虐待防止活動推進委員会 日 時：2026年2月27日(金) (欠席) (3). 福岡市子ども虐待防止活動市民フォーラム 日 時：2025年11月14日(金) (欠席) (4). 児童虐待防止推進月間オレンジリボン・キャンペーン 日 時：2025年11月05日(水) 参加 場 所：福岡市 (5). 福岡市子ども虐待防止専門者研修 日 時：2026年2月16日(月) (欠席)
子ども家庭支援WEBセミナー	第1回(通算24回) 日 時：5月17日(土) 19:00～20:00 参加者：19名 第2回(通算25回) 日 時：7月19日(土) 19:00～20:00 参加者：20名 第3回(通算26回) 日 時：9月20日(土) 19:00～20:00 参加者：23名 第4回(通算27回) 日 時：11月5日(土) 19:00～20:00 参加者：18名 第5回(通算28回) 日 時：1月17日(土) 19:00～20:00 参加者：19名
総括 (2026年度に向けた課題等) 認証研修を継続して来年度も実施していく。 チャイルド・サポート・ネットワーク(C.S.N)については、第1回～3回にかけてリピートして参加される方が少ないため、今後も継続していきながらテーマや内容については委員会で検討していく。	

■障がい者支援委員会

担当理事名：勝野憲司

2025年度事業計画	2025年度事業報告
認定社会福祉士認証研修の開催 障害分野【対象者別科目】 発達障がいの理解と発達障害への 支援の実際	認定社会福祉士認証研修 日 時：2026年 1月10日(土) 9:30~17:00 1月11日(日) 9:30~17:00 場 所：Zoom 内 容：発達障害者支援方法と発達障害の理解 自閉症・学習障害・広汎性発達障害の理解 行動療法 等 受講者：27名
独自研修	独自研修 強度行動障害のある方の障害者支援施設での生活の実際 ～障害者支援施設の今とこれからのについて～ 日 時：2026年 2月28日(土) 13:50~16:30 場 所：エイムアテイン 受講者：12名
県民向け出前講座への派遣	2件の申し込みがあり、委員を派遣することができた。
<p>総括 (2026年度に向けた課題等)</p> <p>(1) 認定社会福祉士認証研修においては、全国での告知が功を奏して予定人数より多く参加、実施できた。来年も同じように早めに周知活動を行いたい。さらに、新しい認証研修も承認を受けたので実施していく。</p> <p>(2) 障害支援区分認定審査会委員事前研修の開催年になるので前回の反省点を踏まえて2日開催を実施していく</p> <p>(3) 県民向け出前講座については、研修の内容ごとに担当委員会がはっきりしたことで依頼を受けやすくなった。依頼の内容について準備資料をカスタマイズする必要があったことから次年度も柔軟に対応していく</p>	

■高齢者委員会

担当理事名：小林優介

2025年度事業計画	2025年度事業報告
高齢分野専門研修会の開催 (認証研修)	認証研修 地域社会・多文化分野 (分野共通) (家族ソーシャルワーク) の開催 日 時：2025年11月 1日(土) 2025年11月 2日(日) 講 師：1) 片岡 靖子 氏 (内部講師) 久留米大学文学部 教授 2) 千葉 晃央 氏 (外部講師) 京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉 学科 助教授 3) 高鍋 竜一 氏 (内部講師) (一社) HIROKAWA 社会福祉士事務所 場 所：エイムアテイン 受講者：13名
<p>総括 (2026年度に向けた課題等)</p> <p>千葉先生による受講生とのジェノグラムの作成は新しい視点の気づきもあり実践的な研修が公表を得た。また県外からも多くの参加者があり、この研修会への高い関心度が伺えた。</p> <p>片岡先生からも期待も高く、2025年度はMSWメンバーと新規認証研修シラバス作成に取り組みに重点を置いた。2026年4月無事に機構へ認証研修の申請ができたことは委員会にとって大きな成果を出すことができた。</p>	

■医療委員会

担当理事名：月川はる奈

2025年度事業計画	2025年度事業報告
独自研修の開催	<p>独自研修会（第1回） 日 時：2025年11月7日(金) 場 所：オンライン Zoom テーマ：HIV 陽性者への支援 ～社会福祉士としての役割を考える～ ※「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究 班」との共催 受講者：38名</p> <p>独自研修会（第2回） 日 時：2026年3月14日(土) 場 所：クローバープラザ テーマ：「アセスメント力を高めよう！～エコロジカル 理論を用いて～」 受講者：40名</p>
委員募集	<p>委員の呼びかけで1名増員。 現在、委員長と委員3名の計4名。 委員募集を継続中。</p>
医療分野認証研修の開催に向けた取り組み	<p>2026年9月に認証研修を開催予定。 「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」との共催 で準備を行っている。</p>
出前講座への講師派遣	<p>「高齢者が入院した時の、医療費の仕組みや保険に 関しての理解を深める」 日 時：2025年7月17日(木) 場 所：行橋市 福原公民館 受講者：20名</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等） 2025年度は3名という少数の委員でありながら、内容の濃い研修会を開催できた。2026年度は認証研修を開催予定であり準備を進めている。また委員による独自研修も開催する話が出ている。 医療ソーシャルワーカーを中心とし、医療分野における社会福祉士の活躍を後押しできるような研修会の開催を今後も行っていく。また受講者には経験年数の少ない医療ソーシャルワーカーも多く、職場を超えて相談し合える場づくりとなるような取り組みも行っていきたい。</p>	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>研修会の開催（年間3回）</p>	<p>独自研修会（第1回） 日 時：2025年11月14日（金）18:00～19:30 場 所：エイムアテイン 内 容：外国人ソーシャルワークについて 受講者：5名</p> <p>独自研修会（第2回） 日 時：2026年1月26日（月）19:30～20:30 場 所：オンライン（Zoom） 内 容：世界の福祉について 受講者：7名</p> <p>自殺予防ソーシャルワーク研修（認証研修）の開催 日 時：2026年2月14日（土）～15日（日） 場 所：エイムアテイン 内 容：自殺予防について 受講者：11名</p>
<p>自殺予防の取り組み</p>	<p>こころと法律の相談会へ委員派遣 日 時：2025年9月12日（金）9:30～16:30 2026年3月17日（火）9:30～16:30 場 所：あいれふ 内 容：面談相談 参加者：7名 委 員：述べ4名派遣</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等） 自殺予防研修は、日本社会福祉士会認証研修として実施。自死家族を含め精神科医師など予防の大切さを学び社会福祉の根本を支える知識を習得できる内容となった。 また、心と法律の相談会に於いては、福岡県弁護士会や福岡県精神福祉士協会など他団体と共同で一般市民の悩みについて実際に共同対応する場を継続的に実施できた。これらについては、2026年度以降も継続予定。外国人支援についての独自研修や世界7カ国の福祉を語る研修も好評であった。</p>	

■災害支援委員会

担当理事名：松岡 剛

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>認証研修の実施</p>	<p>2025年度災害支援活動者養成研修（認定社会福祉士認証研修） 日 時：2026年 1月24日（土） 2026年 1月25日（日） 場 所：クローバープラザ 内 容：講師5名による講義及び演習 修了者は認証単位取得及び福岡 DWAT に推薦可能 受講者：6名（内5名推薦希望）</p>
<p>ブロックとの合同研修会</p>	<p>ブロックとの合同研修会ができなかったが、ブロック支援として、北九州フォーラムによる分科会へ講師派遣支援を実施 日 時：2026年 2月21日（土）14：00～16：00 場 所：西南女学院大学 内 容：第9回北九州フォーラムによる分科会支援（講演者派遣） 「私たちの地域で災害対策や支援を考える～専門職チームの実践報告から見えてくるもの～」 ・福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター センター長 藤本 博昭氏</p>
<p>災害支援委員会独自研修</p>	<p>実施できず</p>
<p>会議への参加</p>	<p>(1) 公益社団法人日本社会福祉士会 危機管理室主催 2025年度都道府県社会福祉士会災害担当者会議 日 時：2026年 3月 8日（日）9：30～12：00 場 所：Zoom ミーティング 内 容：【基調講演】「災害福祉に関する現状と今後の方向性」 ・厚生労働省社会援護局福祉基盤課 課長小野 博史氏 【報告】「令和7年8月豪雨災害支援八代市被災高齢者等把握事業について」（熊本県社会福祉士会） 「東海北陸ブロックの連携協定」（石川県社会福祉士会）</p> <p>(2) 九州・沖縄ブロック災害支援担当者会議 日 時：2025年 5月14日（水） 2026年 2月20日（金） 場 所：Zoom ミーティング 内 容：各県の活動・近況報告及び事業報告、議題・提案事項等 災害時における連携支援及びガイドライン等の確認、他</p> <p>(3) 福岡県災害福祉支援ネットワーク協議会（F ネット）会議 日 時：2025年12月18日（木）14：00～15：00 場 所：Zoom ミーティング 内 容：【協議事項】福岡 DWAT マニュアル等の改定 【報告事項】今後の福岡 DWAT に係る研修について</p>
<p>災害支援福祉チーム員（福岡 DWAT）への推薦</p>	<p>2025年度災害支援活動者養成研修（認定社会福祉士認証研修）修了者における福岡 DWAT 推薦希望者への推薦予定 5名</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証研修内容は初歩的な内容から実践支援まで網羅している研修であるが、受講者が少なく、参加者を増やすことが課題であり、周知方法の改善や他県、他分野へのアプローチ等行い受講者を増やす。 ・ブロック合同研修や独自研修ができなかった。災害支援だけでなく、平常時の取り組みや他専門職団体等との連携を見据えた研修会の開催をめざす。 	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
福岡地方検察庁社会福祉アドバイザー派遣事業をとおして再犯防止への取組の促進	福岡地方検察庁社会福祉アドバイザー派遣 ・登録者 10名 ・派遣数 16名
福岡地方検察庁・保護観察所・地域生活定着支援センター、地方公共団体弁護士等関係機関・団体等との連携促進	(1)福岡地検における入口支援の協議会参加 日 時：2025年10月29日(水) 14:00～15:00 参加者：10名 (2)地域生活定着支援センターのケース会議への参加 日 時：2025年10月6日(月) 14:00～15:00 参加者：2名 (3)福岡保護観察所との協議会等開催 <u>開催なし</u> (4)弁護士会との協議会開催 <u>開催なし</u>
再犯防止、司法と福祉の連携、普及啓発について研修会の開催	(1)福岡刑務所への施設見学 日 時：2026年1月21日(木) 14:00～16:00 参加者：16名 (2)少年鑑別所への施設見学 日 時：2025年10月23日(木) 13:30～15:00 参加者：18名 (3)福岡拘置所への施設見学 日 時：2025年8月20日(水) 13:30～15:00 参加者：28名 (4)司法福祉WEBセミナー <u>開催なし</u>
認証研修企画・開催	認証研修の開催 (1)リーガル・ソーシャルワーク研修 日 時：2025年8月30日(土) 2025年8月31日(日) 場 所：リファレンス 受講者：40名 (2)更生支援コーディネーター養成研修 日 時：2026年2月21日(土) 2026年2月22日(日) 場 所：リファレンス 受講者：41名
<p>総括 (2026年度に向けた課題等)</p> <p>(1) 司法福祉分野への関心が高まっており、施設見学では参加希望者が多いため、2025年度は施設見学を3回開催した。いずれも定員に達する申込があり、施設見学の参加者からも満足頂く内容であったとの評価を頂いた。2026年度も引き続き、会員のニーズに応えられるように施設見学を開催する。</p> <p>(2) 認証研修では、県外から一定数の参加があり、全国的にみても司法福祉分野の興味・関心が高まっていることが伺えた。また、司法福祉分野で勤めている会員はより質の高い研修を求めているため、委員会としてファシリテーターの養成など取り組み、有意義な研修となるよう取り組んでいく。また、2026年度は、受講者が更生支援コーディネーターとして活動できるようになるための体制を整えていく。</p>	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>更新研修の開催 「独立している社会福祉士に聞いてみよう～独立型社会福祉士を目指すために法人を作ろう～」</p>	<p>更新研修 日 時：2025年 8月 2日（土）13:00～16:00 場 所：エイムアテイン 講 義：「独立型社会福祉士のメリットと可能性」 講 師：松澤秀樹氏（独立型社会福祉士事務所まほろば代表） 実践報告： ①「独立している社会福祉士に聞いてみよう（1）」 報告者：青柳晶子氏（合同会社ナル代表社員） ②「独立している社会福祉士に聞いてみよう（2）」 報告者：安田征司氏（社会福祉士事務所ウィズ代表） シンポジウム： 「なぜ、独立を目指したのか？」 青柳晶子氏、安田征司氏（2名） 質疑応答 受講者：14名</p>
<p>独自研修の開催 「独立型社会福祉士の活動と役割について～自己実現を目指して～」</p>	<p>独自研修 日 時：2026年 3月 1日（日）13:00～16:00 場 所：エイムアテイン 講 義：「独立型社会福祉士の活動と役割について～自己実現を目指して～」 講 師：中田雅章氏（公益社団法人日本社会福祉士会前副会長、中田社会福祉士事務所所長） グループワーク：「講義を受けて」 3グループに分け実施 講 評：中田雅章氏 受講者：12名</p>
<p>総括 （2026年度に向けた課題等）</p> <p>(1) 2025年度は、更新研修、独自研修をそれぞれ1回ずつ計2回実施した。参加者の内訳については、すでに独立型社会福祉士として活動している者、今後独立型としての活動を考えている者、また独立型に興味のある者などさまざまであったが、いずれにせよ、「独立型」という社会福祉士の新たな可能性について関心が高いことが窺えた。しかし、研修の参加人数については伸び悩んでおり、参加人数アップのための周知の方法、参加への働きかけについては課題が残ることとなった。</p> <p>(2) 2026年度も、更新研修、独自研修の実施を通じ「独立型社会福祉士」の魅力を伝え、会員のニーズに合った研修会のテーマ選定に向け取り組んでいきたいと考える。さらに、独立型社会福祉士の名簿登録の重要性についての周知も図っていく予定である。</p>	

■高齢者虐待防止専門職員研修事業推進チーム

担当理事名：長野圭介

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>(1) 養護者による高齢者虐待対応市町村職員等初任者研修の受託</p>	<p>(1) 市町村及び地域包括支援センター職員を対象とした養護者による虐待対応初任者研修 日 時：2025年 5月23日(金) 6月6日(金) 2日間 テーマ：養護者による虐待対応について 場 所：5月23日(金) 電気ビル 6月6日(金) 吉塚合同庁舎 参加費：無料(委託費) 受講者：118名</p>
<p>(2) 養護者による高齢者虐待対応管理者・現任者研修の受託</p>	<p>(2) 市町村職員及び地域包括支援センターを対象とした養護者虐待対応における管理者・現任者研修 日 時：2025年10月31日(金) 11月10日(月) 2日間 テーマ：養護者による虐待対応について 場 所：福岡県庁 講堂 参加費：無料(委託費) 受講者：1日目 89名 2日目 85名</p>
<p>(3) 福岡県市町村職員等に対する虐待対応力向上研修(養介護施設編)の受託</p>	<p>(3) 市町村職員等に対して養介護施設従事者等による高齢者虐待対応力向上を目的とした研修 日 時：2025年10月1日(水) テーマ：養介護施設従事者等による虐待対応について 場 所：千代合同庁舎 参加費：無料(委託費) 受講者：66名</p>
<p>(4) 久留米市高齢者虐待防止研修の受託</p>	<p>(4) 久留米市高齢者虐待防止研修の受託 日 時：2026年 2月20日(金) (オンライン及び録画研修) テーマ：養介護施設従事者の虐待防止研修 ※録画方法 事務局による講義の録画作成</p>
<p>総括 (2026年度に向けた課題等)</p> <p>(1) 福岡県からの委託研修の対象者は、行政職員・地域包括支援センター職員が中心となっている。人事異動などにより新たな職員が多数着任するため、虐待防止という高齢者の権利擁護を担う市町村・地域包括支援センターの従事者が、コンプライアンスに基づいて組織的な対応ができるよう研修内容は、最新の情報も含めた充実したカリキュラム内容になるように日々、更新していく。</p> <p>(2) 研修内容の充実・後進育成の視点から講師陣の人材養成・育成への取り組みも検討する。</p>	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 基礎研修の開催</p>	<p>【前期】福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修</p> <p>実施体制：1日目はeラーニングによる遠隔化講義、 2・3日目は講義・演習（集合研修）を実施 研修会場：博多国際展示場</p> <p>日 程：</p> <p>1 日目 (eラーニング講義) 4月24日～5月23日</p> <p>2・3 日目 (講義・演習) 全5回開催 (内容は同じ)</p> <p>第1回：6月13日 (金)～14日 (土) 第2回：7月11日 (金)～12日 (土) 第3回：8月8日 (金)～9日 (土) 第4回：9月22日 (月)～23日 (火) 第5回：10月10日 (金)～11日 (土)</p> <p>内 容：サービス提供の基本的な考え方／サービス提供のプロセス／サービス等利用計画と個別支援計画の関係／サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント／個別支援計画作成のポイントと作成手順／個別支援計画の作成／個別支援計画の実施状況の把握（モニタリング）及び記録方法</p> <p>【後期】福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修</p> <p>実施体制：1日目はeラーニングによる遠隔化講義、 2・3日目は講義・演習（集合研修）を実施 研修会場：博多国際展示場</p> <p>日 時：</p> <p>1 日目 (eラーニング講義) 9月16日～10月15日</p> <p>2 日目 (講義・演習) 全4回開催 (内容は同じ)</p> <p>第1回：11月7日 (金)～8日 (土) 第2回：12月12日 (金)～13日 (土) 第3回：1月9日 (金)～10日 (土) 第4回：2月6日 (金)～7日 (土)</p> <p>内 容：サービス提供の基本的な考え方／サービス提供のプロセス／サービス等利用計画と個別支援計画の関係／サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント／個別支援計画作成のポイントと作成手順／個別支援計画の作成／個別支援計画の実施状況の把握（モニタリング）及び記録方法</p> <p>【修了者】 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 (前期後期含め)：960名</p>

福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 実践研修の開催

【前期】福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修

実施体制：1日目はeラーニングによる遠隔化講義、
2・3日目は講義・演習（集合研修）を実施
研修会場：電気ビル共創館3階

日 時：

事前動画配信(eラーニング)

4月24日～5月23日

1日目、2日目(講義・演習)全5回開催(内容は同じ)

第1回：6月29日(日)～30日(月)

第2回：7月25日(金)～26日(土)

第3回：8月29日(金)～30日(土)

第4回：9月26日(金)～27日(土)

第5回：10月28日(火)～29日(水)

【後期】福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修

実施体制：1日目はeラーニングによる遠隔化講義、
2・3日目は講義・演習（集合研修）を実施
研修会場：リファレンス大博多ビル11階
電気ビル共創館3階

日 時：

事前動画配信(eラーニング)

第1回：9月16日～10月15日

1日目、2日目(講義・演習)全5回開催(内容は同じ)

第1回：11月28日(金)～29日(土)

第2回：12月19日(金)～20日(土)

第3回：1月30日(金)～31日(土)

第4回：2月27日(金)～28日(土)

第5回：3月20日(金)～21日(土)

【内容】

障害福祉の動向／個別支援会の運営方法／サービス担当者会議におけるサービス管理責任者の役割／自立支援協議会を活用した地域課題の解決に向けた取組／サービス提供に関する講義及び演習（モニタリングの方法、個別支援会議の運営方法）／人材育成の手法に関する講義及び演習（サービス提供職員への助言・指導について／OJTとしての事例検討会の進め方）／多職種及び地域連携に関する講義及び演習（サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者等の役割、（自立支援）協議会を活用した地域課題の解決に向けた取り組み、サービス担当者会議と（自立支援）協議会の活用についてのまとめ

【修了者】

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者(前期後期含め)：571名

<p>人材養成研修の開催</p>	<p>グループコーディネーター登録更新研修（内容は同じ） 日 時：2025年 8月 2日（土） 2025年 8月 31日（日） 場 所：リファレンス エイムアテイン 内 容：サビ児管の役割、グループコーディネーター の役割、サビ児管におけるティーチング・コー チング・スーパービジョンの活用 受講者：86名</p>
<p>総括 （2026年度に向けた課題等）</p> <p>今年度は、福岡県社会福祉士会会員へファシリテーターの募集を行い、ファシリテーターの育成を行ってきました。ファシリテーターを希望された会員向けの研修を定期的実施し、人材育成を図ってきました。2026年度に向けた課題として、引き続きファシリテーターの育成を行い、福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修の質の向上に努めていきたいと考えています。</p>	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>2025年度福岡県相談支援従事者等専門コース別研修の実施</p> <p>相談支援専門員 サービス管理責任者、 児童発達支援管理責任者 専門分野別研修</p> <p>【障がい児支援コース】 【権利擁護・成年後見制度コース】 【意思決定支援コース】 【就労支援コース】 を実施する。</p>	<p>相談支援従事者等専門コース別研修</p> <p>【意思決定支援コース】 日 時：2026年 3月 12日（木） 9:15～18:00 場 所：クローバープラザ 受講者：28名</p> <p>【障がい児支援コース】 日 時：2025年 10月 27日（月） 9:15～17:30 : 2025年 10月 28日（火） 9:15～17:30 場 所：クローバープラザ 受講者：27名</p> <p>【就労支援コース】 日 時：2025年 10月 28日（火） 9:15～18:00 : 2025年 10月 29日（水） 9:15～18:00 場 所：クローバープラザ 受講者：42名</p> <p>【権利擁護と成年後見制度コース】 日 時：2026年 2月 5日（木） 9:15～17:30 : 2026年 2月 6日（金） 9:15～17:30 場 所：クローバープラザ 受講者：16名</p> <p>令和7年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修会（国研修）への派遣 日 時：2025年 9月 9日（火） 場 所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 派遣数：3名</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>2025年は相談支援従事者等専門コース別研修（意思決定支援）に加え、障がい児支援コース、権利擁護・成年後見制度コース、就労支援コースと各コース一回ずつの研修を開催することができ、アンケート結果からも一定の評価を受けることが出来た。また、新たに開催したコースについては、一名ずつ国研修へ派遣し、2026年度以降も継続して研修を開催できる体制を整えることができ、今後も相談支援従事者の資質の向上を図っていく。</p>	

■障害者虐待防止権利擁護研修事業推進チーム

担当理事名：長野圭介

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>福岡県障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修</p>	<p>福岡県障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修の開催</p> <p>【行政・虐待防止センターコース】(全2日間) 日 時：2025年 7月 31日(木) 施設従事者虐待コース 2025年 8月 29日(金) 養護者虐待コース： 委託元：福岡県 場 所：クローバープラザ 受講者：施設従事者虐待コース：36名 養護者虐待コース：39名</p> <p>【障がい福祉サービス事業所管理者等コース】(全3日間) ※同一内容を3会場で開催 日 時：2025年12月 3日(水) 2026年 1月 20日(火) 2026年 2月 9日(月) 委託元：福岡県 場 所：2025年12月 3日(水) 北九州レインボープラザ 2026年 1月 20日(火) クローバープラザ 2026年 2月 9日(月) 久留米シティプラザ 受講者：207名(3日間延べ)</p>
<p>障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修への派遣</p>	<p>障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修(国研修)への派遣 日 時：2025年 9月 3日(水)～5日(金) 場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター 派遣数：1名</p>
<p>総括 (2026年度に向けた課題等)</p> <p>(1) 福岡県障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修について 行政等コースは、養護者及び施設従事者による虐待に対する行政における対応を講義・演習を用いて集合研修で行った。今後も研修プログラムの充実を図っていきたい。 管理者等コースにおいては行政等コースとは別の日程で開催した。2026年度もこの形で実施していく予定ではある。受講対象者が新規開設法人や小規模の法人の職員等に広がりを見せるなか、研修内容の再考の検討を研修スタッフで感じている所である。 また行政等コースは、行政等の現任者の会員研修協力者が限られているため、今後スタッフの補充を必要としている。</p> <p>(2) 2026年度も集合研修で行うため、講師陣と対応可能なスタッフ等の検討が必要と考えられる。</p> <p>(3) 行政コースは参加者が常に横ばいの状態であり、参加者が増えていない現状がある。福岡県と協議し、参加者増に向けた取り組みを検討する必要があると考えられる。</p>	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>1. 社会福祉士受験対策講座の開催</p> <p>(1) 受験対策講座（8日間）の開催</p> <p>(2) 国家試験直前最終点検講座の開催</p>	<p>1. 社会福祉士受験対策講座の開催</p> <p>※当初の計画どおり8日間開催した。</p> <p>(1) 受験対策講座（8日間）</p> <p>日 時：2025年 8月 3日(日) 10日(日) 17日(日) 24日(日) 31日(日) 9月 7日(日) 14日(日) 21日(日)</p> <p>場 所：クローバープラザ 受講者：10名 (社会人5名、準会員5名) (大学生0名)</p> <p>(2) 国家試験直前最終点検講座</p> <p>※当初の計画どおり開催した。</p> <p>日 時：2026年 1月17日(土) 場 所：クローバープラザ 受講者：11名 (社会人9名、準会員2名) (大学生0名)</p>
<p>2. 社会福祉士国家試験全国統一模試の開催</p>	<p>2. 社会福祉士国家試験全国統一模試</p> <p>※当初の計画どおり開催した。</p> <p>日 時：2025年10月19日(日) 場 所：クローバープラザ 受講者：37名 (社会人26名、準会員11名) (大学生0名)</p>
<p>3. その他</p>	<p>3. 合否の追跡調査</p> <p>受験対策講座及び全国統一模試受験者へ国家試験合否の追跡調査を行った。 (合格率84.6%)</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <p>当初の計画日程どおり無事開催することができた。受験対策講座は昨年度よりも受講者が減少し採算面で大きく逆風を受ける形になったものの、全国統一模試では、昨年度よりも受験者が増加となった。受験対策講座に関しては、マンネリ解消と採算性の改善も含めて抜本的見直しが必要な時期にきたと判断するに至った。</p> <p>2026年度は5日間の効率的なカリキュラムとし、さらに受講者が合格に向けてモチベーションを維持・アップできる支援プログラムに移行していく。</p>	

【 収益事業等／その他の事業（相互扶助事業） 】

1. ブロック活動等会員活動の支援（他1）

■福岡ブロック

担当理事名：石井宗仁

2025年度事業計画	2025年度事業報告
新人オリエンテーションの開催	日 時：2025年 7月 19日（土）13：00～17：00 場 所：エイムアテイン 内 容：新人オリエンテーション 社会福祉士会活動について 基礎研修・生涯研修制度について ばあとなあ活動について 福岡ブロック活動について グループワーク（ワールドカフェ形式） 受講者：30名
福岡ブロックミニ研修会 福祉レジェンドシリーズ	日 時：2025年 10月 18日（土）14：30～17：00 場 所：VILLENT 博多グラン 内 容：「人生のキャリアとソーシャルワーク」 受講者：11名
総括（2026年度に向けた課題等） ① 新人オリエンテーション 他ブロックからの参加者受け入れにより、福岡ブロックの会場は定員に達する盛況となった。アンケート結果も良好で、各講師による活動説明を通じて、本会への理解を深める機会となった。 またグループワークにおいてはワールドカフェ形式を採用し全ての受講生が顔を合わせ、活発な意見交換が行われたことで、受講生同士ネットワーク構築に寄与できた。 課題：受講希望者が定員を超過し、一部の入会者が受講できない事態が発生した為、次回開催においては定員を前年度の30名から60名へと拡大し、会場は60名規模でのグループワークが可能な広めの会場を確保する。 ② 福岡ブロックミニ研修会「福祉レジェンドシリーズ」 少人数制を活かし、円座になってのアットホームな雰囲気を実施した。普段は聞けない社会福祉士としてのキャリア形成やソーシャルワークの実践について直接対話ができ、非常に満足度の高い研修となった。 反省点と2025年度の未実施事項 当初計画していた「集合研修」および「施設見学会」については、講師選定や企画検討は進んでいたものの、諸事情により開催に至らなかった。これにより、会員に対して多様な学びの場を十分に提供できなかったことが今年度の大きな反省点である。 2026年度（令和8年度）に向けた課題と次年度計画 次年度は2025年度の成果と反省を踏まえ、以下の改善・強化を図る。 ① 事業計画の確実な履行 前年度に未実施となった「集合研修」および「施設見学会」を、2026年度事業計画に基づき確実に開催する。 ② 福岡ブロック会員活動の活性化 広報の強化：会員への情報到達率を高めるための施策を検討する。 交流の多角化：多領域のソーシャルワーク実践への理解を深める活動や、趣味のグループ形成など、会員間のコミュニケーションを多層化させる。 継続企画：好評の「福祉レジェンドシリーズ」は、次年度も継続して企画・実施する。 以上の通り、2025年度の活動を総括し、2026年度はより多くの会員が参加でき、かつ質の高い実践を学べるブロック活動を目指していく。	

■北九州ブロック

担当理事名：勝野憲司

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>北九州ブロック新人オリエンテーション・研修会の開催</p>	<p>日 時：2025年 7月12日（土） 場 所：西南女学院大学 内 容 ○新人オリエンテーション 基礎研修・障害研修制度について ぱあとなあ福岡の説明 ○第1回北九州ブロック研修会 テーマ「地域で根差したソーシャルワークとは」 実践報告：保護司の活動の実際、社会を明るくする運動について 小倉南保護区 保護司会 会長 白石保彦氏 独立型社会福祉士の実践を通して 独立型社会福祉士 安田征司氏 シンポジウム：「地域（メゾ）レベル・マクロレベルの活動について考える」 コーディネーター 西南女学院大学教授 今村浩司氏 茶話会（交流会） 受講生：57名 会員27名 学生26名</p>
<p>交流会</p>	<p>日 時：2025年9月27日（土） 場 所：コール天 参加者：27名</p>
<p>第9回北九州フォーラム</p>	<p>日 時：2026年 2月21日（土） 10:00～17:00 場 所：西南学院大学 受講者：100名 分科会：「私たちの地域で災害対策や支援を考える」 ～専門職チームの実践報告から見えてくるもの～ 講 義：福岡県社会福祉士会 「DWATの役割と社会福祉士に求めるもの」 福岡県社会福祉協議会 災害福祉センター 藤本博昭氏 福岡県精神保健福祉士会 「DPATの役割と精神保健福祉士の求めるもの」 日本 DPAT 業務調整員 末光晋也氏 薬剤師 門田善法氏（南ヶ丘病院所属） シンポジウム：「実践から見た専門職としての役割」 シンポジスト：藤本氏 末光氏 門田氏 司 会：今村氏</p>
<p>総括 （2026年度に向けた課題等） 新人オリエンテーション、研修後の茶話会についてあらかじめ班などを作り場が回れるように段取りする ブロック内の非会員の入会促進や会員間の交流、ネットワーク作りが充実できるよう努めていく。</p>	

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>新人オリエンテーションの開催</p>	<p>新人オリエンテーションの開催 日 時：2025年 7月 26日（土） 14：00～17：00 場 所：飯塚市立岩交流センター 内 容：基礎研修・生涯研修制度について ぱあとなあ福岡について 筑豊ブロック紹介・グループワーク 参加者：6名 視察者1名</p>
<p>研修会・交流会の開催</p>	<p>(1) 筑豊ブロック独自研修会 日 時：2025年 11月 15日（土） 場 所：飯塚市菰田交流センター 内 容：専門職 GP ROUND3 in IIZUKA グループでテーマを決め意見・情報交換 受講者：4名</p> <p>(2) 第7回筑豊地区ソーシャルワーカー4 団体合同研修会 日 時：2026年 1月 31日（土） 14：00～20：00 場 所：飯塚病院百年ホール 内 容：テーマ「専門職として重層的支援体制を理解する～ 事例を通じて各専門分野の役割を一緒に考える～」 （各団体紹介・実践報告・グループワーク・講評） ・実践報告者：久留米市社会福祉協議会 地域福祉課 主査 和田 健氏 ・講評/助言者：福岡県立大学准教授 河野高志氏 受講者：53名</p> <p>(3) 筑豊ブロック交流会 日 時：2025年 9月 20日（土） 14：00～19：00 場 所：飯塚市①第一ボウル ②えびちゃん勝盛店 内 容：社会福祉士の情報交換やつながり作り、入会促進 ①ボーリング ②懇親会 参加者：①15名 ②15名</p>
<p>総括（2026年度に向けた課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筑豊地区は会員数が少なく、研修会参加者も少ないが、研修会では事例発表やグループワークを行い、顔の見えるつながりを意識した研修内容を実施している。今後も会員が求める魅力ある研修会を企画し、周知活動も工夫していく。 ・ソーシャルワーカー4 団体合同研修会は、分野を超えたソーシャルワーカーの意見交換や情報共有が行えた。共生社会における協働、ネットワーク化が図れ、地域包括支援の一環が担える取り組みであり、今後も筑豊地区のソーシャルワーカーが求める研修会に参画していく。 ・ブロック交流会は、レクリエーションや懇親会で、楽しみながら情報交換や会員間のつながりができ、気軽に参加できると好評を得ている。筑豊らしさの顔の見えるつながりが広まり、会員間のつながりの拡充、会の活動参加へとつなげられるものであり、今後も継続していく。 	

■筑後ブロック

担当理事名：小田村悠希

2025年度事業計画	2025年度事業報告
<p>新人オリエンテーションの開催</p>	<p>日 時：2025年 7月 12日（土） 14:00～17:00 場 所：久留米市市民活動センターみんくる 内 容：筑後ブロックの紹介 ばあとなあ、基礎研修の内容紹介 グループワークの実施 受講者：19名</p>
<p>研修会・交流会の開催</p>	<p>筑後ブロック独自研修 日 時：2025年 11月 15日（土） 10:00～16:30 場 所：久留米リサーチ・パーク 内 容：ソーシャルワーク理論 システム論・BPS モデルの基礎を学ぶ 講 師：片岡靖子氏 （久留米大学文学部社会福祉学科教授） 内 容：システム論やBPS モデルに関する講義 受講者：14名</p> <p>筑後ブロック交流会 日 時：2026年 2月 8日（日） 10:00～14:30 場 所：①スポガ久留米店（午前） ②焼肉カムサ 内 容：ボーリングや懇親会を通しての交流会 参加者：27名 （幹事と①または②の片方受講者もあわせた人数）</p>
<p>総括 （2026年度に向けた課題等）</p> <p>(1) 2025年度は2024年度の流れを引き継ぎ、新人オリエンテーションをはじめ、独自研修や交流会、を開催することができている。研修内容に関しても、受講者から一定以上の好意的な評価を得ることができた。</p> <p>(2) 筑後ブロックの活動目標の1つである、会員同士の「顔の見える関係づくり」に貢献できる研修づくりに関しては、独自研修や交流会の開催を通して達成できていると考える。特に交流会では、これまで研修などに参加されることがなかった会員も参加されており、「参加してよかった」などの意見も直接聞くことができている。</p> <p>(3) 2026年度も会員ファーストの独自研修や交流会などを開催できるよう幹事間で協議を行い、並行して他ブロックとの連携や関係性をより一層深化させていきたい。</p>	

2. 日本社会福祉士会への支援・連携（他2）

日本社士会支援

2025年度事業計画	2025年度事業報告
年会費の支弁	本会会員ひとり当たりの負担金5千円に会員数を乗じた額を日本社会福祉士会へ納入。
新入会者経費の支弁	会員証の発行、会員バッジ、生涯研修手帳等新入会者への送付手続きを日本社会福祉士会に委託するため、その負担金として、ひとり当たり1,000円を日本社会福祉士会へ納入。
綱紀案件負担金の支弁	綱紀案件発生時に日本社会福祉士会にその対応を委託するため、それに伴う多額の経費負担の一部を全国県士会がそれぞれ負担。 (2025年度負担金=2025年3月31日時点の会員数×200円)
日本社会福祉士会会員管理システム管理費の支弁	会員管理システムのクライアント証明書発行手数料の負担 (手数料：約11千円/年)
総括（2026年度に向けた課題等） すべて計画通り実施した。2026年度も上記同様実施する。	

【 法人運営事業 】

2025年度事業計画	2025年度事業報告
定時社員総会の開催 ① 総会記念講演会の開催 ② 第29回定時社員総会の開催	定時社員総会の開催 ※予定通り ① 総会記念講演会の開催 2025年 6月22日(日) am ② 第29回定時社員総会の開催 2025年 6月22日(日) pm
理事会の開催 (全7回) ① 第1回理事会 2025年 4月20日(日) ② 第2回理事会 2025年 5月18日(日) ③ 第3回理事会 2025年 9月 7日(日) ④ 第4回理事会 2025年10月 5日(日) ⑤ 第5回理事会 2025年12月 7日(日) ⑥ 第6回理事会 2026年 1月18日(日) ⑦ 第7回理事会 2026年 3月15日(日)	理事会の開催 (全8回) ① 第1回理事会 2025年 4月20日(日) ② 第2回理事会 2025年 5月18日(日) ③ 臨時理事会 2025年 8月17日(日) ④ 第3回理事会 2025年 9月 7日(日) ⑤ 第4回理事会 2025年10月 5日(日) ⑥ 第5回理事会 2025年12月 7日(日) ⑦ 第6回理事会 2026年 1月18日(日) ⑧ 第7回理事会 2026年 3月15日(日)
組織強化 (1) 入会促進キャンペーンの実施 ① 若手入会促進キャンペーン (30歳以下若年層入会者の年会費減免実施) ② 入会3年継続キャンペーン ③ シニア入会大歓迎キャンペーン ④ 秋得入会キャンペーン ⑤ 永年会員特別感謝キャンペーン ⑥ 会員継続感謝キャンペーン ⑦ 準会員入会促進 ⑧ 退会抑止策の検討・立案 ⑨ 入会促進キャンペーンの積極的PR (2) 2026年度理事改選の準備開始 【注】 監事は4年任期のため今回改選なし ① 選挙管理委員会委員の公募 ② 選挙管理委員会の開催 ③ 選挙管理委員会公示 (2月) ④ 理事立候補の受付 (2月～3月)	組織強化 (1) 入会促進キャンペーンの実施 ① 若手入会促進キャンペーン (30歳以下若年層入会者の年会費減免実施) ② 入会3年継続キャンペーン ③ シニア入会大歓迎キャンペーン ④ 秋得入会キャンペーン ⑤ 永年会員特別感謝キャンペーン ⑥ 会員継続感謝キャンペーン ⑦ 準会員入会促進 ⑧ 退会抑止策の検討・立案 ⑨ 入会促進キャンペーンの積極的PR ⑩ 会員2,000人台到達記念賞 ⑪ 入会者紹介キャンペーン (2) 2026年度理事改選の準備開始 ※予定通り 【注】 監事は4年任期のため今回改選なし ① 選挙管理委員会委員の公募 ② 選挙管理委員会の開催 ③ 選挙管理委員会公示 (2月) ④ 理事立候補の受付 (2月～3月) (3) 支部化・代議員制度導入実現に向けた検討 ① プロジェクトチーム (支部化・代議員制検討委員会) 立上げ ② 代議員制度導入県士会 (神奈川県) への情報収集 (システム設計、諸規程整備検討) ③ 定款改正案ほか、関連諸規程の検討・策定会員へパブリックコメント募集4回実施 ④ 臨時社員総会開催(11/29)に向けて会員への情報周知・協力依頼 ⑤ 臨時社員総会議案資料集作成
総括 (2026年度に向けた課題等) 2025年度は正会員数が2,000人台に到達した。様々な入会促進キャンペーンを実施しているが、一方で退会者数も毎年一定数あるため、退会抑止策に関しても重点的に検討していきたい。 支部化・代議員制度の導入に向けて本格的に活動を開始した。2026年11月29日に臨時社員総会を開催し定款の改正案を可決成立させて2027年度からの完全移行を目指す。定款の改正には会員の3分の2以上の承認が必要のため、不退転の覚悟をもって全会員へ書面表決の協力をお願いする。そのため、ホームページと会報等を有効活用して環境整備も同時並行して実施していく。	